

米政策の推進状況について

令和3年12月2日
農林水産省農産局

目 次

【米政策の推進状況について】

| | |
|---|----|
| ○ 今回の基本指針の変更のポイント | 3 |
| ○ 米の需給動向と対応方向について | 4 |
| ○ 新市場開拓に向けた水田リノベーション事業（R3補正）の 拡充・見直し事項 | 6 |
| ○ 新市場開拓に向けた水田リノベーション事業の概要 | 7 |
| ○ 麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクトによる支援の見直し | 8 |
| ○ 令和3年産における作付転換の状況 | 9 |
| ○ 水田活用の直接支払交付金の見直し事項（案） | 10 |
| ○ 令和3年産における支援単価設定と所得試算（全国平均） | 11 |
| ○ 令和4年産における支援単価と所得のイメージ | 12 |
| ○ 令和4年産水田活用予算の全体像（案） | 13 |
| ○ 産地交付金の仕組み | 14 |
| ○ 令和4年度における水田活用の直接支払交付金・ 水田リノベーション事業の拡充・見直し事項（案） | 15 |

【参考】

| | |
|--|----|
| ○ 令和3/4年及び令和4/5年の主食用米等の需給見通し | 17 |
| ○ 米の販売数量及び民間在庫の推移 | 18 |
| ○ 産地別民間在庫の状況 | 19 |
| ○ 産地と卸間の相対取引価格の推移 | 20 |
| ○ 令和3年産米の相対取引価格（令和3年10月の年産平均価格） | 21 |
| ○ 相対取引契約数量の推移 | 22 |
| ○ 令和2・3年産米のスポット価格の推移 | 23 |
| ○ 令和3年産水稻の作付面積及び予想収穫量 | 24 |
| ○ 令和3年産の水田における作付状況 | 25 |
| ○ 米穀周年供給・需要拡大支援事業とコロナ影響緩和特別対策 による支援イメージ | 28 |
| ○ 米穀周年供給・需要拡大支援事業による支援 | 29 |
| ○ 水田活用の直接支払交付金、ナラシ・収入保険の支払い までの未収益期間に対する融資の拡充 | 30 |
| ○ ナラシ対策：令和3年産米の作況を踏まえた当年産収入額 及び補てん額試算 | 31 |
| ○ ナラシ対策：令和2年産米の10a当たりの当年産収入額 及び補てん額（試算） | 32 |
| ○ ナラシ対策：各年産の加入状況等 | 33 |
| ○ 政府備蓄米に関する食糧法の規定 | 34 |
| ○ 水田活用の直接支払交付金 | 35 |
| ○ 水田農業の高収益化の推進〈一部公共〉 | 36 |
| ○ 米穀周年供給・需要拡大支援事業 | 37 |
| ○ 経営所得安定対策 | 38 |
| ○ 政府備蓄米の無償交付（子ども食堂等、子ども宅食への支援） | 39 |
| ○ 米の需要拡大・販売促進対策について | 40 |
| ○ 国産農林水産物等販路多様化緊急対策の取組の具体例 | 41 |
| ○ コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況 | 42 |

米政策の推進状況

今回の基本指針の変更のポイント

前回 (7月29日)

○ 令和2/3年の主食用米等の需給実績(速報値)

(基本指針の図1「令和2/3年の需要実績」に基づき作成)

(単位: 万トン)

| | | | | |
|-----------------|-------|-----|---------------------|------------|
| 令和2年6月末民間在庫量 | A | 200 | 33万トンの調整保管を行う場合の見直し | |
| 令和2年産主食用米等生産量 | B | 723 | | |
| 令和2/3年主食用米等供給量計 | C=A+B | 922 | | → 889 【33】 |
| 令和2/3年主食用米等需要量 | D | 704 | | |
| 令和3年6月末民間在庫量 | E=C-D | 219 | | → 186 【33】 |

在庫量の確定に伴う変更 ①

○ 令和3/4年の主食用米等の需給見直し

(単位: 万トン)

| | | | |
|-----------------|-------|-----|------------|
| 令和3年6月末民間在庫量 | E | 219 | → 186 【33】 |
| 令和3年産主食用米等生産量 | F | 693 | → 695 【37】 |
| 令和3/4年主食用米等供給量計 | G=E+F | 912 | → 881 【37】 |
| 令和3/4年主食用米等需要量 | H | 703 | → 703 【37】 |
| 令和4年6月末民間在庫量 | I=G-H | 210 | → 178 【37】 |

令和3年10月25日現在の予想収穫量に基づく変更 ②

人口推計値の更新による変更並びに米の販売動向に基づく補正 ③

注1: 令和3年産主食用米等生産量は、6月末時点の作付意向調査の結果(6.2~6.5万ha減)を基に試算すると、平年作の場合694~696万トンとなる見込み。

注2: 令和3/4年主食用米等需要量は、過去のデータを用いてトレンドで算出した令和3/4年の1人当たり消費量(推計値)に、令和3年の人口(推計値)を乗じて算出した値であり、新型コロナウイルス感染症の状況等によっては、変動する可能性がある。

今回 (11月19日)

○ 令和2/3年の主食用米等の需給実績(確定値)

(基本指針の図1「令和2/3年の需要実績」に基づき作成)

(単位: 万トン)

| | | | | |
|-----------------|-------|-----|--|------------|
| 令和2年6月末民間在庫量 | A | 200 | 令和2年産米について37万トンの調整保管(うち15万トンは特別枠)に取り組む場合の見直し | |
| 令和2年産主食用米等生産量 | B | 723 | | |
| 令和2/3年主食用米等供給量計 | C=A+B | 922 | | → 885 【37】 |
| 令和2/3年主食用米等需要量 | D | 704 | | |
| 令和3年6月末民間在庫量 | E=C-D | 218 | | → 181 【37】 |

○ 令和3/4年の主食用米等の需給見直し

(単位: 万トン)

| | | | |
|-----------------|-------|-----------|--------------------|
| 令和3年6月末民間在庫量 | E | 218 | → 181 【37】 |
| 令和3年産主食用米等生産量 | F | 701 | → 695 【37】 |
| 令和3/4年主食用米等供給量計 | G=E+F | 919 | → 904 <<15>> |
| 令和3/4年主食用米等需要量 | H | 702 ~ 706 | → 703 【37】 |
| 令和4年6月末民間在庫量 | I=G-H | 213 ~ 217 | → 198 ~ 202 <<15>> |

平年作: 695万トン

注1: 欄外の「令和2年産米について37万トンの調整保管(うち15万トンは特別枠)に取り組む場合の見直し」については、令和3/4年において、令和2年産米の37万トンのうち22万トンが供給され、15万トンについてコロナ影響緩和特別対策(特別枠)に取り組む場合の見直し。

注2: 主食用米等需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況や価格動向、コロナ影響緩和特別対策(特別枠)の販売・提供動向等によって、今後、変動する可能性がある。

▲21万トン
(▲3.9万ha)

○ 令和4/5年の主食用米等の需給見直し

(単位: 万トン)

| | | | |
|-----------------|-------|-----------|--------------------|
| 令和4年6月末民間在庫量 | I | 213 ~ 217 | → 198 ~ 202 <<15>> |
| 令和4年産主食用米等生産量 | J | 675 | → 675 【37】 |
| 令和4/5年主食用米等供給量計 | K=I+J | 888 ~ 892 | → 873 ~ 877 <<15>> |
| 令和4/5年主食用米等需要量 | L | 692 | → 692 【37】 |
| 令和5年6月末民間在庫量 | M=K-L | 196 ~ 200 | → 181 ~ 185 <<15>> |

注1: 欄外の「令和2年産米について37万トンの調整保管(うち15万トンは特別枠)に取り組む場合の見直し」については、令和2年産米の15万トンについてコロナ影響緩和特別対策(特別枠)に取り組む場合の見直し。

注2: 主食用米等需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況や価格動向、コロナ影響緩和特別対策(特別枠)の販売・提供動向等によって、今後、変動する可能性がある。

米の需給動向と対応方向について ①

米政策改革の考え方

- ・ 平成30年産から、米の直接支払交付金を廃止するとともに、**行政による生産数量目標の配分を廃止**。
- ・ 現在の米政策は、**主食用米の需要が毎年減少**すると見込まれる中、今後も、国内の**消費拡大**や**輸出拡大**の取組を進めつつ、**自らの経営判断による「需要に応じた生産・販売」**を着実に推進していくことが基本。

最近の需給動向

- ・ 人口減少等により主食用米の需要が減少している中で、
 - ① **需要減少に見合った令和2年産の作付面積の削減が進まなかったこと**
 - ② 令和2年産米の概算金が高水準であり、**JA系統の集荷率が上昇した**こと
 - ③ **新型コロナの影響**により、**民間在庫の過剰**に直面。
- ・ このため、過去最大規模の作付転換が進んだ令和3年産に続き、**令和4年産においても相当程度の作付転換が必要**。



対応方向

- ・ コロナによる需要減に相当する量に対応する新たな**特別枠**を設け、**中食・外食、生活弱者等への米の販売・提供を支援**。
- ・ **令和3年産米についても、主食用米の長期計画的な販売を前倒して支援する必要**。
- ・ **政府備蓄米**は、不測の事態に備えて一定量の国産米を保有することを目的としており、これを**需給操作のために運用することは制度の趣旨に沿わないことから、政府備蓄米の買入数量の拡大は行わない**。
- ・ **また、令和4年産についても、必要な生産量の削減が必要**。

米の需給動向と対応方向について ②

最近の需給動向

- 令和3年産の作付転換に対して、3,400億円に及ぶ水田活用予算を措置し、前年比で約6.3万ha(過去最大規模)の減少。飼料用米の作付面積が大幅に増加。
- JAグループの協力もあり、過去最大規模の作付転換を実現したが、JAグループは、需給緩和時に集荷が増えやすく、2年産在庫を多く抱えたこともあり、各産地の概算金(仮渡金)を昨年産より低く設定。こうしたなか、現物市場の検討と並行して、JAグループは集荷・販売のあり方の検討を開始。

対応方向

- 令和4年産についても、より収益性の高い作物への転換に向けた取組への一層の支援が必要。子実用とうもろこしを追加(水田リノベーション事業)。
- より定着性の高い作付転換につなげるための見直しが必要(戦略作物助成の単価維持、複数年・拡大加算の見直し、地力増進作物の追加、転作が定着した水田等への支援の見直し等)(水田活用の直接支払交付金)。
- 収入減少影響緩和交付金(ナラシ対策)について、需要に応じた生産を後押しする観点から、生産者が事前にJA等と出荷契約を結んだもの、実需者と販売契約を結んだもの等を対象とすることについて検討。
- 一時的な収入減少に対しては、ナラシ対策や収入保険で対応し、これが支払われるまでの間、無利子融資。
- 関係者とともに、米の需給実態を示す新たな価格等の情報の活用等を検討。

新市場開拓に向けた水田リノベーション事業(R3補正)の拡充・見直し事項

- 国産需要の拡大が見込まれる「子実用とうもろこし」について、新たに対象品目に追加。
- 加工用米について、昨年度の助成単価が水田活用交付金の通常単価よりも高く(4万円/10a)、水田リノベーション事業の支援を受けていない場合でも、実需者との交渉時に価格引き下げを求められる等の課題があったとの声を踏まえ、助成単価を3万円/10aに引き下げつつ、支援対象面積を拡大。
- 予算規模を前年度よりも大幅に拡大(生産者向け支援:270億円→410億円)。これにより、支援対象面積は約6.7万haから約10.3~11万haへと拡大。

■ 水田活用交付金・水田リノベーション事業の単価

(単位: 10a当たり)

| | 水田活用交付金 単価 | R2補正水田リノベ事業 | | R3補正 水田リノベ事業 単価案 |
|-----------------------|---------------|-------------|-------------------|------------------------|
| | | 単価 | 採択率 | |
| 新市場開拓用米 | 2万円 | 4万円 | 100% | 4万円 |
| 加工用米 | 2万円 | 4万円 | 68% | 3万円 |
| 麦・大豆 | 3.5万円 | 4万円 | 麦: 45% 大豆: 59% | 4万円 |
| 高収益作物 | 0 | 4万円 | 100% | 4万円 |
| 子実用 とうもろこし | 3.5万円 | — | — | 4万円 |

■ 水田リノベーション事業の予算額・支援面積

| | 予算額 | 支援面積 |
|-------------|--------------|--------------------|
| R2補正 | 270億円 | 6.7万ha |
| R3補正 | 410億円 | 10.3~11万ha※ |
| 増減 | +140億円 | +3.6~4.3万ha |

※麦・大豆等と加工用米とで助成単価が異なるため、支援面積は品目ごとの採択結果によって異なる

新市場開拓に向けた水田リノベーション事業(令和3年度補正予算)の概要

- 輸出や加工品原材料等の需要拡大が期待される品目の生産拡大に向け、低コスト生産等に取り組む生産者を支援するとともに、実需者の製造機械・施設整備等を支援。
- 対象作物に労働生産性の高い子実用とうもろこしを追加し、生産者にとっての作付転換の選択肢を拡大するとともに、生産者向け支援の予算規模を令和3年産よりも大幅に拡大し、より多くの取組を支援。

支援内容

1. 生産者向け支援【410億円】

- ・ 実需者との結び付きの下、実需者ニーズに応えるための低コスト生産等の取組面積に応じた支援

| 対象作物 | 助成単価 |
|--|---------|
| 新市場開拓用米(輸出用米等)、麦・大豆、高収益作物(野菜等)、 <u>子実用とうもろこし</u> | 4万円/10a |
| 加工用米 | 3万円/10a |

2. 実需者向け支援【10億円】

- ・ 需要の創出・拡大のための機械・施設の整備支援

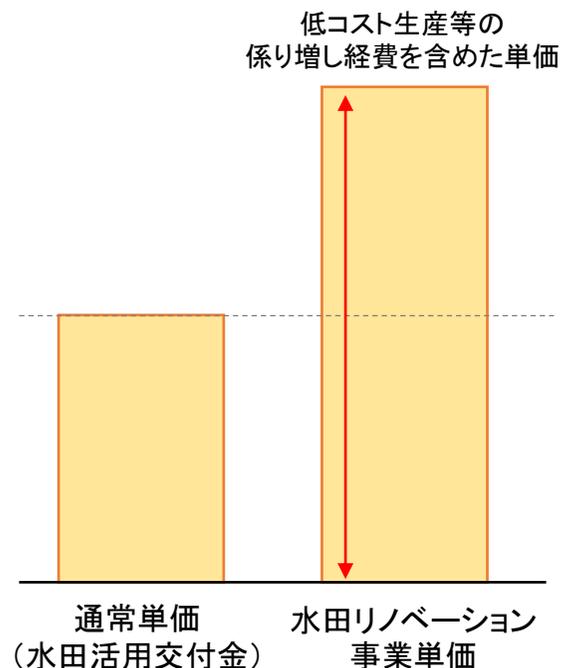
【対象】

- ・ 輸出向けパックご飯の製造ライン
- ・ 新市場開拓用米の保管施設 等

生産者向け支援のイメージ

<主な要件>

- ① 実需者との結び付き(産地・実需協働プランの策定)
- ② 低コスト生産等の取組の実施



【低コスト生産等の取組例】

新市場開拓用米・加工用米



直播栽培 等

高収益作物・子実用とうもろこし



排水対策 等

麦・大豆



土壌診断に基づく施肥 等

麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト（令和3年度補正予算）による支援の見直し

- 麦・大豆の国産シェアを拡大するため、水田での**作付けの団地化**、**営農技術の導入**等による産地の生産体制の強化・生産の効率化を推進。
- 一層取り組みやすい事業とするため、**採択要件や技術メニューの見直し**を行う。 【32.5億円】

営農技術導入メニューと支援単価

作付けの団地化に取り組むことに加えて、以下の技術を導入した場合に所定の単価を支援。

- ① 湿害対策技術の導入(2,000円/10a)
- ② 効率的播種技術等の導入(5,000円/10a)
- ③ 先進技術の導入(10,000円/10a)
- ④ 土壌診断に基づく土づくりの推進(3,000円/10a)
- ⑤ 生育後期重点施肥の推進(3,000円/10a) 等

最大15,000円/10a



採択要件・技術メニューの見直し

R2補正・R3当初

- 要件として、**麦・大豆の増加面積以上に主食用米面積の減少**を設定。

採択要件：
麦・大豆の増加面積 ≤ 主食用米の減少面積

- 選択できる**技術メニューが限られていた**。

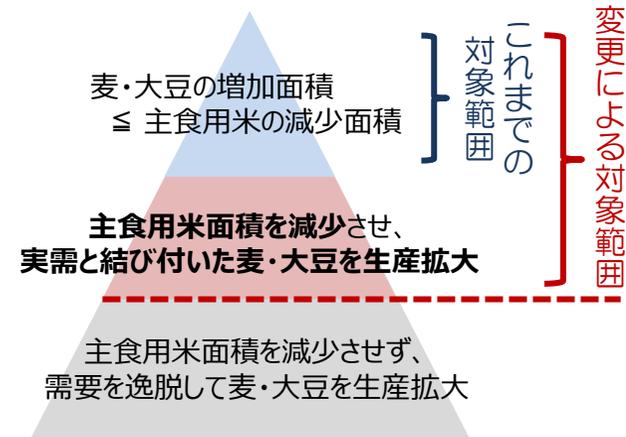
R3補正における変更点

米要件を緩和。

- ※ 主食用米の減少自体は要件とするが、主食用米の減少面積と麦・大豆の増加面積はリンクさせない。
- ※ 主食用米を大きく減少させる産地はポイントで優遇。

技術メニューを拡充。

- ※ 化学肥料・農薬の使用量の低減や、難防除雑草対策等の地域特認技術等を追加。



- このほか、**団地化の推進**、**機械・施設の導入**、**保管施設の整備**、**一時保管**、**商品開発やマッチング**等を支援。

令和3年産における作付転換の状況

- 令和3年産の主食用米の作付面積は、前年比で約6.3万ha(過去最大規模)の減少。
- そのうち飼料用米への転換が4.5万ha(全体の7割以上)を占め、麦・大豆等の品目への転換は伸び悩み。

【主食用米及び戦略作物等の作付】

| | | (万ha) | | | | | | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|------------------------|-----|------|----|----------------------|
| | 主食用米 | 備蓄米 | 戦略作物等 | | | | | | | 麦 | 大豆 | その他 (飼料作物、そば・なたね) |
| | | | 加工用米 | 新規需要米 | | | | 新市場 開拓用米 (輸出用米等) | | | | |
| | | | | 飼料用米 | WCS用稲 | 米粉用米 | | | | | | |
| 2年産 | 136.6 | 3.7 | 4.5 | 7.1 | 4.3 | 0.6 | 0.6 | 9.8 | 8.5 | 10.2 | | |
| | ▲6.3 | | +0.2 | +4.5 | +0.1 | +0.1 | +0.1 | +0.4 | 0 | 0 | | |
| 3年産 | 130.3 | 3.6 | 4.8 | 11.6 | 4.4 | 0.8 | 0.7 | 10.2 | 8.5 | 10.2 | | |

注1: 加工用米及び新規需要米(飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米)は取組計画の認定面積。

注2: 備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

注3: その他は飼料作物、そば、なたねの面積。

注4: 麦、大豆、その他(基幹作のみ)は地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積。

水田活用の直接支払交付金の見直し事項(案)

現行

○ 飼料用米等の複数年契約加算、拡大加算の扱い

- ・飼料用米・米粉用米の複数年契約加算：1.2万円/10a
※年度ごとに、3年以上の複数年契約を有している取組に対して支払い
(3年間の継続支払いを約束したものではない)

- ・地域協議会単位での拡大加算
※前年度からの拡大分に限る

○ 交付対象水田の扱い

- ・水張りができない農地(畦畔や用水路がない農地等)は交付金の対象外

○ 多年生作物(牧草)の扱い

<戦略作物助成(多年生牧草)>

- ・播種せずとも収穫を行っていけば3.5万円/10a
(麦・大豆や飼料用とうもろこし等と同単価)

○ 高収益作物畑地化支援の扱い

- ・品目を問わず17.5万円/10aで支援
(R3年に10.5万円/10aから引き上げ)

見直し方向

- ・複数年契約の取組率が約9割に達し、複数年契約推進の効果が薄れてきている一方、複数年契約に対する経過措置として、継続分(R2～、R3～)を対象にR4は0.6万円/10aを支援。

- ・新たに新市場開拓用米について複数年契約加算(1万円/10a)を創設。

- ・転換拡大を支援する水田リノベーション事業と趣旨が重複。都道府県連携型助成による拡大分への支援は継続。

- ・現行ルールを再徹底。

- ・転換作物が固定化している水田の畑地化を促すとともに、水稻と転換作物とのブロックローテーション体系の再構築を促すため、現場の課題を検証しつつ、今後、5年間(R4～R8)に一度も水張りが行われない農地は交付対象水田としない方針。

- ・一度播種すれば5～10年に渡って収穫可能であり、播種年以外は生産コストも低いことから、収穫のみを行う年の戦略作物助成の単価を見直す。

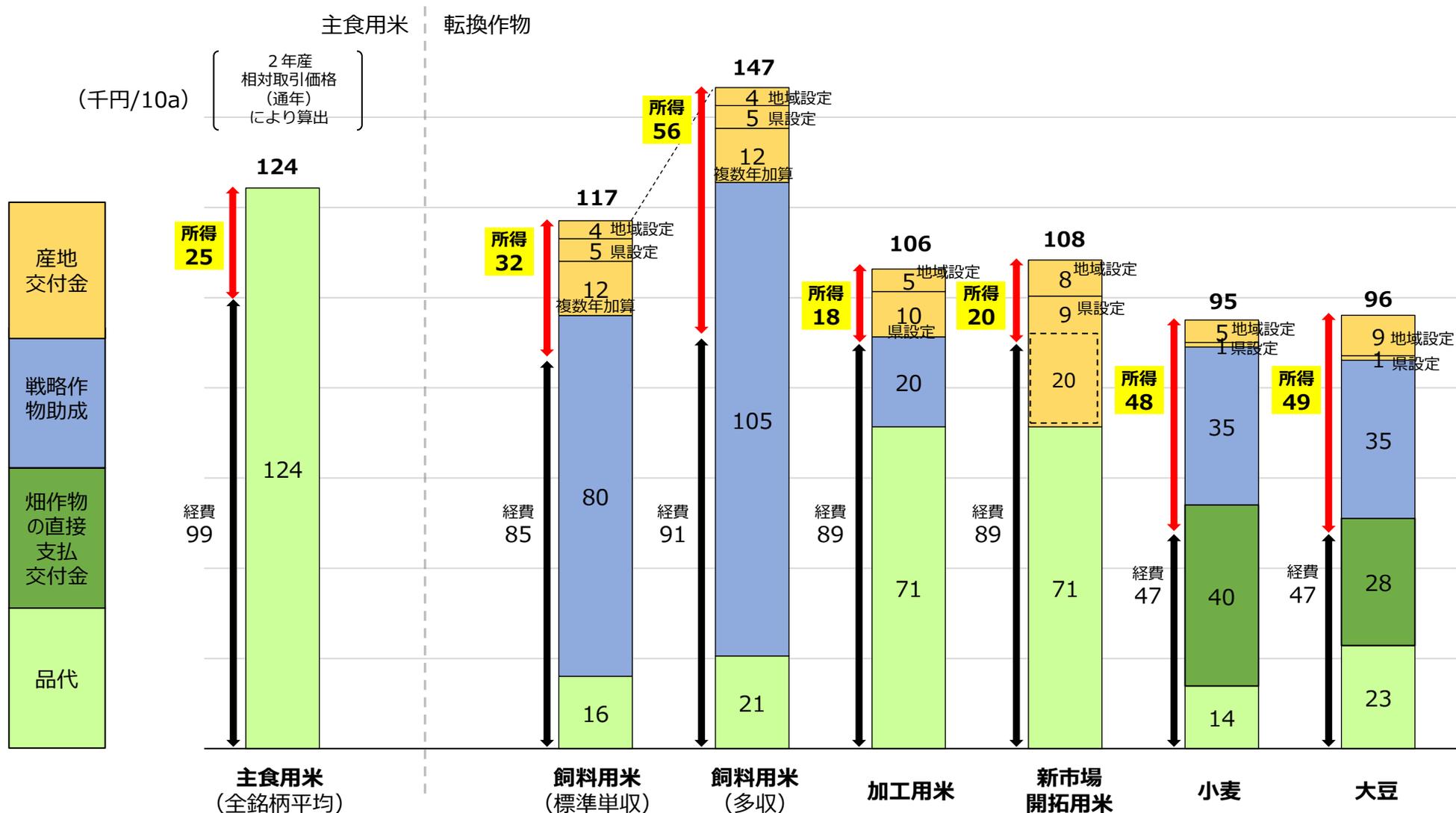
<戦略作物助成(多年生牧草)>

- 播種～収穫を行う年：3.5万円/10a
収穫のみを行う年：1.0万円/10a

- ・高収益作物による畑地化を加速させるため、高収益作物は17.5万円/10a(その他作物は10.5万円/10a)。

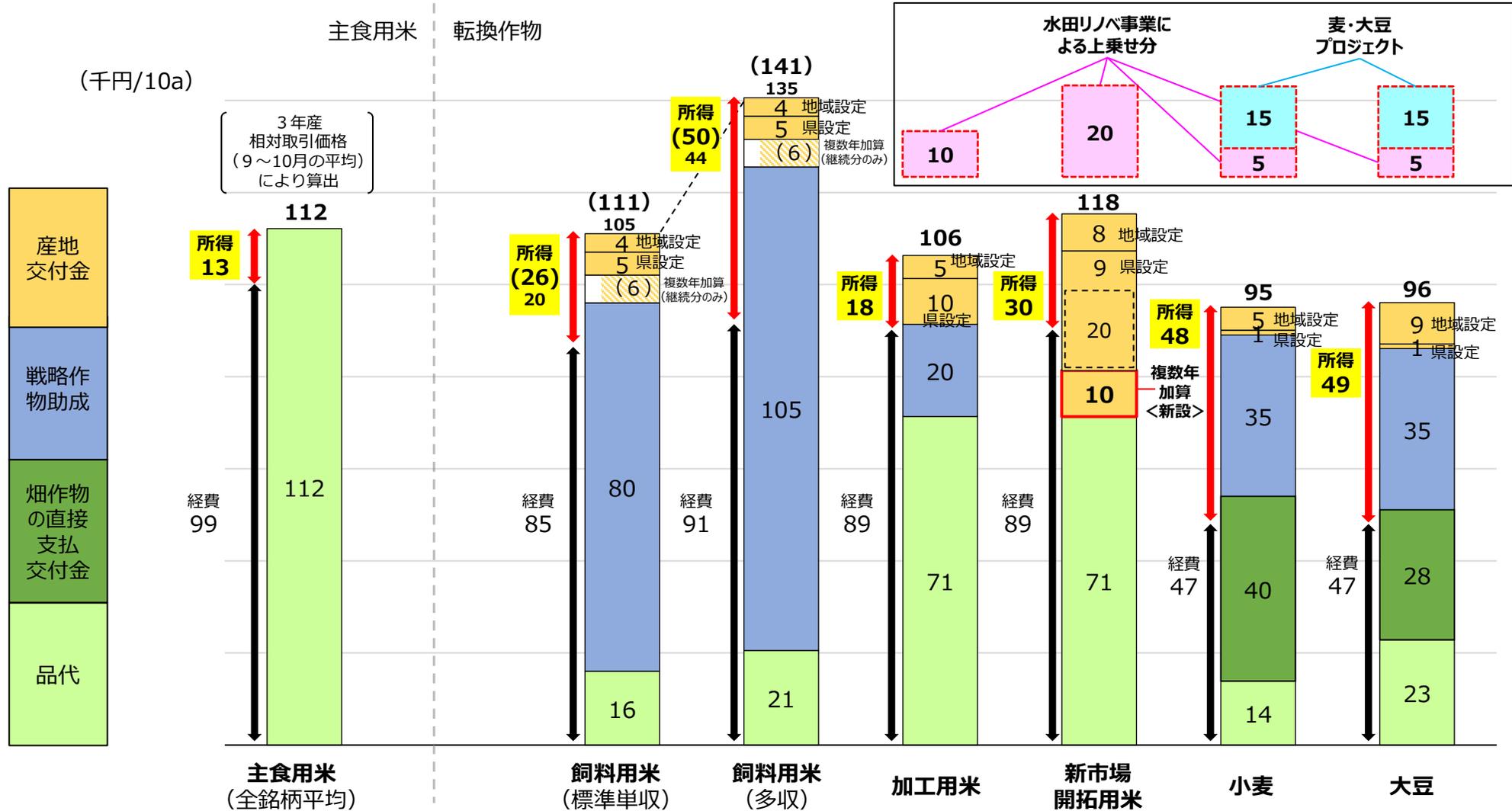
- ・遊休農地や耕作放棄地への畑地化は支援とならないことを徹底。

令和3年度における支援単価設定と所得試算(全国平均)



- ※1 主食用米の品代は、相対取引価格（2年産通年平均）（税込）及び水稲の10a当たり平年単収（農家ふるい目幅ベース）により算出。
- ※2 飼料用米の品代は、取組事例のデータ（30円/kg）及び水稲10a当たり平年単収（1.7mmベース、多収の場合は+150kg）により算出。
- ※3 加工用米、新市場開拓用米の品代は8,000円/60kgとして設定し、水稲の10a当たり平年単収（1.7mmベース）により算出。
- ※4 小麦、大豆の品代は、農産物生産費統計における販売収入（粗収益：副産物込）のH28～H30の平均（全国平均）。
- ※5 畑作物の直接支払交付金の平均交付単価は、小麦6,710円/60kg、大豆9,930円/60kg。
- ※6 産地交付金の県設定および地域設定単価については、R3計画ベース（5月末）の平均交付単価。
- ※7 経費については、農産物生産費統計の全国平均（小麦、大豆はH28～H30の平均、その他はR2）及び聞き取りによる手数料及び流通保管経費等により算出。
- ※8 ラウンドの関係上、計と内訳が一致しない場合がある。

令和4年度における支援単価と所得のイメージ



※1 主食用米の品代は、相対取引価格（3年産9～10月の平均）（税込）及び水稲の10a当たり単収（農家ふるい目幅ベース）により算出。

※2 飼料用米の品代は、取組事例のデータ（30円/kg）及び水稲10a当たり単収（1.7mmベース、多収の場合は+150kg）により算出。

※3 加工用米、新市場開拓用米の品代は8,000円/60kgとして設定し、水稲の10a当たり単収（1.7mmベース）により算出。

※4 小麦、大豆の品代は、農産物生産費統計における販売収入（粗収益：副産物込）のH28～H30の平均（全国平均）。

※5 産地交付金の県設定および地域設定単価については、R3計画ベース（5月末）の平均交付単価。

※6 畑作物の直接支払交付金の平均交付単価は、小麦6,710円/60kg、大豆9,930円/60kg。

※7 麦大豆プロジェクトは水田麦・大豆産地生産性向上事業による団地化推進の要件を満たし、新規に営農技術を導入する面積について、事業に採択された場合に支援（最大1.5万円/10a）。

※8 水田リノベ事業上乗せ分は、水田リノベ事業単価（麦・大豆・新市場開拓用米：4万円/10a、加工用米：3万円/10a）と、戦略作物助成（麦・大豆：3.5万円/10a、加工用米：2万円/10a）・産地交付金（新市場開拓用米：2万円/10a）との差額

※9 経費については、農産物生産費統計の全国平均（小麦、大豆はH28～H30の平均、その他はR2）及び聞き取りによる手数料及び流通保管経費等により算出。

※10 ラウンドの関係上、計と内訳が一致しない場合がある。

令和4年産水田活用予算の全体像(案)

○ 令和4年度当初予算と令和3年度補正予算(前倒し支援)を合わせ、令和4年産における作付転換支援に対応可能な予算総額を確保。

令和3年度補正予算

令和4年度当初予算

<令和4年産水田活用予算>

水田活用の
直接支払交付金
(3年産不足分)
240億円
【R3補正】

コロナ影響緩和
特別対策
(「特別枠」)
165億円
【R3補正】

前倒し対策

水田リノベーション事業
410億円
【R3補正】

<対象作物>
新市場開拓用米(輸出用米等)
加工用米、麦・大豆、
高収益作物(野菜等)、子実用とうもろこし

水田活用の直接支払交付金
(P)
【R4当初】

麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト
24億円【R3補正】+(P)【R4当初】

<ハード整備等関連予算>

- ・ハード整備等支援 10億円
(輸出向けパックご飯製造ライン等)
- ・麦・大豆の安定供給支援 9億円
(備蓄力強化のための保管支援等)

- ・機械・施設等の導入支援(強い農業づくり総合支援交付金、産地生産基盤パワーアップ事業等)
- ・栽培技術等の導入支援(持続的生産強化対策事業(園芸作物等の生産振興対策等)
畜産生産力・生産体制強化対策事業
稲作農業超低コスト産地育成事業等)
- ・畑地化・汎用化等の基盤整備(農業農村整備事業等)

産地交付金の仕組み

- 国から各都道府県に配分した資金枠の範囲内で、都道府県が助成内容(対象作物・単価等)を設定。
- 9割を年度当初に配分し、残りの1割については、戦略作物(麦・大豆、飼料用米等)が拡大した場合にはそれらへの支払いに充当し、残余がある場合に限り、追加配分する仕組み。

産地交付金の構成(イメージ)

産地交付金

【年度当初配分: 9割】

※H28・29年は8割

【追加配分枠: 1割】

※H28・29年は2割

戦略作物助成等

(全国統一単価で
国が必ず支払う
必要がある助成)

「追加配分枠」の運用(これまで「留保」と呼んできた部分)

- ・年度当初には都道府県に配分しない
- ・戦略作物が拡大した場合には戦略作物助成の支払いに充当
- ・残余がある場合に限り、年度途中に追加配分

産地交付金による支援の設定

国

資金枠を
配分

都道府県

資金枠の範囲内で
都道府県が
助成内容を設定

資金枠を
配分

地域協議会

都道府県の判断で、資金枠
を地域協議会に配分し、
地域協議会ごとに助成内容
を設定することも可能

令和4年度における水田活用の直接支払交付金・水田リノベーション事業の拡充・見直し事項(案)

主な課題

- ・ 主食用米の消費減少が続く中で、定着性の高い品目への転換・産地化を図る必要
- ・ 令和3年産での作付転換のうち、飼料用米への作付転換が7割以上を占め、小麦・大豆・飼料作物等の品目の拡大は伸び悩み
- ・ 今後需要の拡大が見込まれる輸出等の新市場開拓や加工・業務用等のニーズへの対応が重要

1. 国内外の新市場開拓による水田農業の生産性・収益性向上

- 「水田リノベーション事業」の予算額を大幅に拡充【R3補正】
- 麦・大豆の団地化、農業機械・技術導入に対する支援を強化【R3補正・R4当初】
- 新市場開拓用米の複数年契約に対する支援を新たに創設(1万円/10a)【R4当初】

2. 飼料用米以外の選択肢の拡大

- 水田リノベーション事業の対象品目・単価の拡充・見直し【R3補正】
 - ・ 子実用とうもろこしを追加(4万円/10a)
 - ・ 加工用米の助成単価を3万円/10aに見直し、支援対象面積を拡大
- 計画的な地力増進作物の取組に対する支援を創設(2万円/10a)【R4当初】
- 飼料用米の戦略作物助成単価は維持しつつ、産地交付金の加算措置を見直し【R4当初】
 - ・ 飼料用米・米粉用米複数年契約加算は、複数年契約に対する経過措置として、継続分(R2年～、R3年～)を対象にR4は0.6万円/10aを措置
 - ・ 転換作物拡大加算、高収益作物等拡大加算は廃止(都道府県連携型助成による拡大分への支援は継続)
- 産地交付金の「留保枠」については、残余があった場合の「追加配分枠」として継続【R4当初】

3. 転作が定着した水田への支援の見直し

- 水張りができない農地は交付金の対象外であることを徹底
- 現場の課題を検証しつつ、今後5年間(R4～8年)に一度も水張りが行われない農地は交付対象水田としない方針【R4当初】
- 多年生牧草への支援(戦略作物助成)について、播種～収穫を行う年は3.5万円/10a、収穫のみを行う年は1.0万円/10aに設定【R4当初】
- 高収益作物による畑地化を加速(17.5万円/10a(その他作物は10.5万円/10a)【R4当初】

参 考

令和3/4年及び令和4/5年の主食用米等の需給見通し(令和3年11月基本指針)

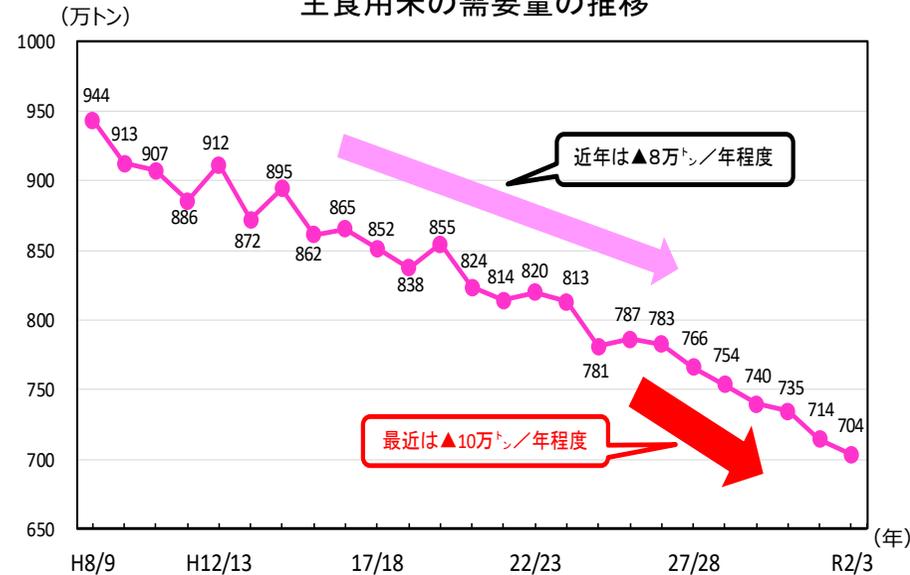
【令和3/4年の主食用米等の需給見通し】

令和2年産米について
37万トンの調整保管
(うち15万トンは特別
枠)に取り組む場合の
見通し

| | | (単位:万トン) | |
|-----------------|-------|-----------|----------------|
| 令和3年6月末民間在庫量 | A | 218 | → 181 【37】 |
| 令和3年産主食用米等生産量 | B | 701 | |
| 令和3/4年主食用米等供給量計 | C=A+B | 919 | → 904 ≪15≫ |
| 令和3/4年主食用米等需要量 | D | 702 ~ 706 | |
| 令和4年6月末民間在庫量 | E=C-D | 213 ~ 217 | → 198~202 ≪15≫ |

注1：欄外の「令和2年産米について37万トンの調整保管（うち15万トンは特別枠）に取り組む場合の見通し」については、令和3/4年において、令和2年産米の37万トンのうち22万トンが供給され、15万トンについてコロナ影響緩和特別対策（特別枠）に取り組む場合の見通し。
注2：主食用米等需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況や価格動向、コロナ影響緩和特別対策（特別枠）の販売・提供動向等によって、今後、変動する可能性がある。

主食用米の需要量の推移

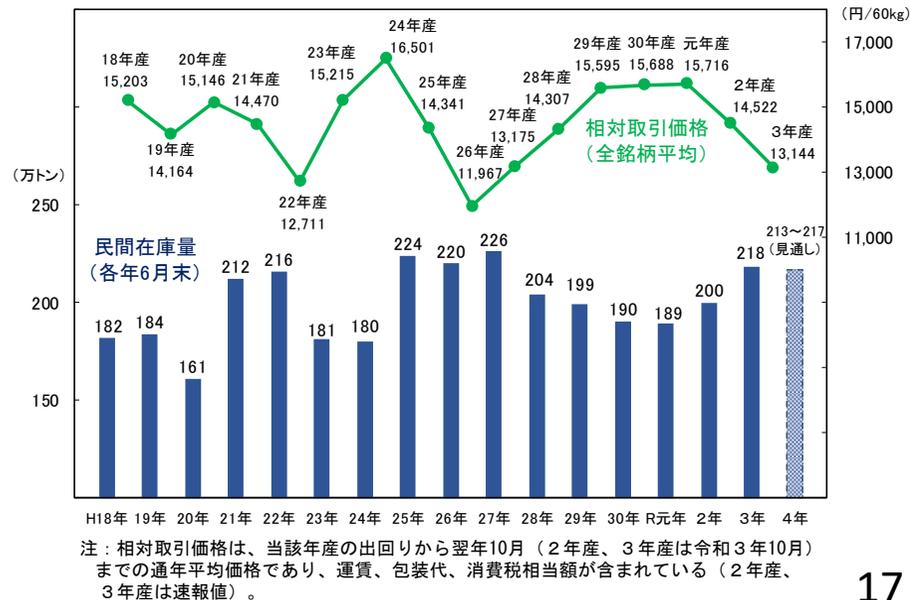


【令和4/5年の主食用米等の需給見通し】

| | | (単位:万トン) | |
|-----------------|-------|-----------|----------------|
| 令和4年6月末民間在庫量 | E | 213 ~ 217 | → 198~202 ≪15≫ |
| 令和4年産主食用米等生産量 | F | 675 | |
| 令和4/5年主食用米等供給量計 | G=E+F | 888 ~ 892 | → 873~877 ≪15≫ |
| 令和4/5年主食用米等需要量 | H | 692 | |
| 令和5年6月末民間在庫量 | I=G-H | 196 ~ 200 | → 181~185 ≪15≫ |

注1：欄外の「令和2年産米について37万トンの調整保管（うち15万トンは特別枠）に取り組む場合の見通し」については、令和2年産米の15万トンについてコロナ影響緩和特別対策（特別枠）に取り組む場合の見通し。
注2：主食用米等需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況や価格動向、コロナ影響緩和特別対策（特別枠）の販売・提供動向等によって、今後、変動する可能性がある。

相対取引価格と民間在庫量の推移



米の販売数量及び民間在庫の推移(令和3年10月)

- 主食用米の需要が1人当たりの消費量や人口減少等の影響により毎年約10万ト(約1.4%)程度減少すると見込まれる中、直近1年間(令和2年1月~12月)においては、新型コロナウイルス感染症の影響等により、中食・外食事業者向けの販売数量が減少している一方で、販売数量が伸びている小売事業者向けを合わせても全体で2%の減少となっている。
- 令和3年10月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年同月比+5万トンの329万トンとなっており、前月の対前年同月比+24万トンと比べ19万トン減少しているが、これは令和3年産米の作付転換により、主食用米等の生産量が701万トンと令和2年産の主食用米等の生産量(723万トン)と比べ22万トン減少している中で、例年よりも生育が早く集荷が前倒しされたことで前月の民間在庫が、一時的に対前年で増加したこと等によるものと考えられる。

【米穀販売事業者における販売数量の動向】

| | 2年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2年1月~12月計 | 3年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
|----------------------------|------|------|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|-----------|------|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 小売事業者向け (※令和元年との比較) | 101% | 112% | 124% | 110% | 95% | 104% | 103% | 105% | 102% | 103% | 101% | 108% | 106% | 107% | 96% | 84% | 92% | 108% | 99% | 99% | 101% | 100% | 96% |
| 中食・外食事業者等向け (※令和元年との比較) | 98% | 99% | 88% | 75% | 76% | 89% | 86% | 85% | 89% | 92% | 92% | 92% | 88% | 87% | 88% | 103% | 121% | 115% | 104% | 105% | 100% | 102% | 100% |
| 販売数量計 (※令和元年との比較) | 100% | 106% | 108% | 94% | 86% | 97% | 95% | 95% | 96% | 98% | 97% | 100% | 98% | 97% | 92% | 91% | 102% | 111% | 101% | 102% | 101% | 101% | 98% |

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000ト以上の販売事業者(年間取扱数量約160万ト(令和2年産主食用米等の生産量723万トの約2割))である。
 2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
 3：速報値であるため、公表後の数値修正が生じる場合がある。
 4：令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年(4月までは平成31年)の同月との比較をした値を記載。

【購入数量の推移(家計調査)】

(単位：Kg、%)

| | 2年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2年1月~12月計 | 3年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|-----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 購入数量 | 3.52 | 4.60 | 5.54 | 5.44 | 5.11 | 4.94 | 4.90 | 5.06 | 7.04 | 7.71 | 5.25 | 5.48 | 64.53 | 3.92 | 4.12 | 4.99 | 4.81 | 4.88 | 4.73 | 4.32 | 5.09 | 6.26 |
| 前年比 | 90.0% | 100.9% | 116.9% | 108.2% | 108.5% | 102.1% | 107.9% | 110.2% | 109.7% | 94.5% | 96.9% | 102.4% | 103.7% | 111.4% | 89.6% | 90.1% | 88.4% | 95.5% | 95.7% | 88.2% | 100.6% | 88.9% |

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移(出荷+販売段階)】

(単位：万玄米トン)

| | 当年7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 翌年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | |
|------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2/3年 | 出荷+販売段階 | 119 | 101 | 190 | 324 | 344 | 342 | 321 | 293 | 265 | 230 | 199 | 173 |
| | 出荷段階 | 84 | 70 | 151 | 265 | 285 | 284 | 269 | 245 | 217 | 186 | 162 | 132 |
| | 販売段階 | 35 | 31 | 39 | 59 | 60 | 58 | 52 | 48 | 48 | 44 | 37 | 41 |
| 3/4年 | 出荷+販売段階 | 138 | 118 | 214 | 329 | | | | | | | | |
| | 対前年差 | +19 | +17 | +24 | +5 | | | | | | | | |
| | 出荷段階 | 106 | 90 | 178 | 276 | | | | | | | | |
| | 対前年差 | +22 | +20 | +27 | +11 | | | | | | | | |
| | 販売段階 | 32 | 28 | 36 | 53 | | | | | | | | |
| | 対前年差 | ▲3 | ▲2 | ▲3 | ▲5 | | | | | | | | |

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。
 2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。
 3 期間については、3/4年であれば、令和3年7月~4年6月である。

産地別民間在庫の状況(令和3年10月)

(単位:千玄米トン)

| | 2年 | 2年 | 3年 | 対前年 同月差 | 対前年 同月比 | 3年 | 対前年 同月差 | 対前年 同月比 |
|-----|---------|---------|---------|------------|------------|---------|------------|------------|
| | 9月 | 10月 | 9月 | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④=③-① | ⑤=③/① | ⑥ | ⑦=⑥-② | ⑧=⑥/② |
| | (千玄米トン) | (千玄米トン) | (千玄米トン) | (千玄米トン) | (%) | (千玄米トン) | (千玄米トン) | (%) |
| 北海道 | 141.9 | 336.1 | 231.1 | + 89.2 | + 62.9% | 369.8 | + 33.7 | + 10.0% |
| 青森 | 82.5 | 159.9 | 108.7 | + 26.2 | + 31.8% | 156.8 | ▲ 3.1 | ▲ 2.0% |
| 岩手 | 47.2 | 132.6 | 59.0 | + 11.9 | + 25.2% | 132.1 | ▲ 0.5 | ▲ 0.3% |
| 宮城 | 91.6 | 187.3 | 139.3 | + 47.6 | + 52.0% | 226.1 | + 38.9 | + 20.8% |
| 秋田 | 140.5 | 290.9 | 160.0 | + 19.4 | + 13.8% | 292.2 | + 1.3 | + 0.5% |
| 山形 | 95.0 | 208.7 | 103.3 | + 8.3 | + 8.7% | 216.3 | + 7.7 | + 3.7% |
| 福島 | 89.8 | 224.1 | 80.5 | ▲ 9.3 | ▲ 10.4% | 198.7 | ▲ 25.4 | ▲ 11.3% |
| 茨城 | 126.3 | 144.0 | 138.3 | + 12.1 | + 9.5% | 155.4 | + 11.4 | + 7.9% |
| 栃木 | 111.3 | 160.7 | 140.1 | + 28.8 | + 25.8% | 145.6 | ▲ 15.2 | ▲ 9.4% |
| 群馬 | 5.5 | 11.5 | 8.3 | + 2.8 | + 50.7% | 7.4 | ▲ 4.1 | ▲ 35.7% |
| 埼玉 | 17.1 | 32.9 | 23.7 | + 6.6 | + 38.7% | 36.1 | + 3.2 | + 9.8% |
| 千葉 | 104.5 | 98.1 | 108.0 | + 3.5 | + 3.4% | 101.2 | + 3.1 | + 3.2% |
| 東京 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | + 0.0 | - | 0.0 | + 0.0 | - |
| 神奈川 | 0.6 | 2.3 | 0.6 | ▲ 0.1 | ▲ 13.1% | 2.2 | ▲ 0.0 | ▲ 1.6% |
| 山梨 | 1.7 | 3.7 | 1.8 | + 0.1 | + 6.0% | 3.7 | ▲ 0.0 | ▲ 0.8% |
| 長野 | 30.3 | 65.3 | 30.9 | + 0.6 | + 2.0% | 62.5 | ▲ 2.8 | ▲ 4.3% |
| 静岡 | 16.2 | 19.6 | 15.2 | ▲ 1.0 | ▲ 6.1% | 20.0 | + 0.4 | + 1.9% |
| 新潟 | 225.0 | 327.0 | 213.8 | ▲ 11.2 | ▲ 5.0% | 296.3 | ▲ 30.8 | ▲ 9.4% |
| 富山 | 79.2 | 103.9 | 74.3 | ▲ 4.9 | ▲ 6.2% | 98.4 | ▲ 5.5 | ▲ 5.3% |
| 石川 | 54.6 | 75.2 | 64.8 | + 10.2 | + 18.7% | 80.7 | + 5.5 | + 7.3% |
| 福井 | 47.9 | 71.6 | 51.8 | + 3.9 | + 8.2% | 69.0 | ▲ 2.6 | ▲ 3.6% |
| 岐阜 | 13.1 | 18.6 | 11.5 | ▲ 1.6 | ▲ 12.3% | 16.7 | ▲ 1.9 | ▲ 10.2% |
| 愛知 | 16.5 | 26.0 | 15.5 | ▲ 1.0 | ▲ 6.1% | 24.4 | ▲ 1.6 | ▲ 6.1% |
| 三重 | 34.2 | 37.7 | 37.1 | + 2.9 | + 8.4% | 42.6 | + 4.9 | + 13.1% |

| | 2年 | 2年 | 3年 | 対前年 同月差 | 対前年 同月比 | 3年 | 対前年 同月差 | 対前年 同月比 |
|-----|---------|---------|---------|------------|------------|---------|------------|------------|
| | 9月 | 10月 | 9月 | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④=③-① | ⑤=③/① | ⑥ | ⑦=⑥-② | ⑧=⑥/② |
| | (千玄米トン) | (千玄米トン) | (千玄米トン) | (千玄米トン) | (%) | (千玄米トン) | (千玄米トン) | (%) |
| 滋賀 | 53.8 | 67.8 | 57.0 | + 3.2 | + 6.0% | 65.6 | ▲ 2.2 | ▲ 3.3% |
| 京都 | 10.4 | 13.1 | 10.0 | ▲ 0.4 | ▲ 3.6% | 12.9 | ▲ 0.2 | ▲ 1.4% |
| 大阪 | 0.4 | 0.5 | 0.3 | ▲ 0.1 | ▲ 28.4% | 0.8 | + 0.3 | + 60.3% |
| 兵庫 | 31.1 | 40.9 | 28.0 | ▲ 3.1 | ▲ 10.0% | 42.4 | + 1.4 | + 3.5% |
| 奈良 | 2.5 | 6.1 | 2.1 | ▲ 0.4 | ▲ 14.9% | 6.9 | + 0.8 | + 13.7% |
| 和歌山 | 0.8 | 1.0 | 0.7 | ▲ 0.1 | ▲ 17.7% | 1.1 | + 0.1 | + 12.3% |
| 鳥取 | 10.5 | 24.3 | 12.8 | + 2.4 | + 22.5% | 18.6 | ▲ 5.7 | ▲ 23.4% |
| 島根 | 17.4 | 24.5 | 17.1 | ▲ 0.2 | ▲ 1.3% | 26.8 | + 2.4 | + 9.6% |
| 岡山 | 23.8 | 33.2 | 15.3 | ▲ 8.5 | ▲ 35.6% | 30.0 | ▲ 3.2 | ▲ 9.7% |
| 広島 | 23.7 | 38.1 | 23.7 | + 0.0 | + 0.2% | 42.7 | + 4.6 | + 12.0% |
| 山口 | 15.5 | 21.2 | 11.9 | ▲ 3.6 | ▲ 23.4% | 27.9 | + 6.7 | + 31.7% |
| 徳島 | 17.3 | 16.4 | 16.1 | ▲ 1.1 | ▲ 6.6% | 15.0 | ▲ 1.5 | ▲ 9.0% |
| 香川 | 7.1 | 13.8 | 7.7 | + 0.6 | + 8.5% | 15.5 | + 1.7 | + 12.0% |
| 愛媛 | 5.8 | 9.5 | 5.5 | ▲ 0.2 | ▲ 4.1% | 10.6 | + 1.1 | + 11.7% |
| 高知 | 7.8 | 9.3 | 8.7 | + 1.0 | + 12.4% | 10.4 | + 1.2 | + 12.4% |
| 福岡 | 18.1 | 29.0 | 19.1 | + 0.9 | + 5.0% | 38.5 | + 9.5 | + 32.9% |
| 佐賀 | 9.1 | 20.6 | 8.0 | ▲ 1.0 | ▲ 11.3% | 23.9 | + 3.3 | + 16.2% |
| 長崎 | 2.5 | 6.0 | 2.3 | ▲ 0.2 | ▲ 6.1% | 6.6 | + 0.5 | + 8.8% |
| 熊本 | 12.3 | 33.2 | 14.3 | + 2.0 | + 16.1% | 35.1 | + 1.9 | + 5.8% |
| 大分 | 4.7 | 10.0 | 5.2 | + 0.5 | + 10.8% | 10.7 | + 0.7 | + 6.9% |
| 宮崎 | 3.2 | 10.5 | 4.9 | + 1.8 | + 55.9% | 11.1 | + 0.7 | + 6.4% |
| 鹿児島 | 7.9 | 15.9 | 9.2 | + 1.3 | + 16.9% | 17.4 | + 1.5 | + 9.2% |
| 沖縄 | 0.3 | 0.2 | 0.4 | + 0.1 | + 34.2% | 0.3 | + 0.1 | + 41.1% |
| 全国 | 190万ト | 324万ト | 214万ト | +24万ト | +12.6% | 329万ト | +5万ト | +1.5% |

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

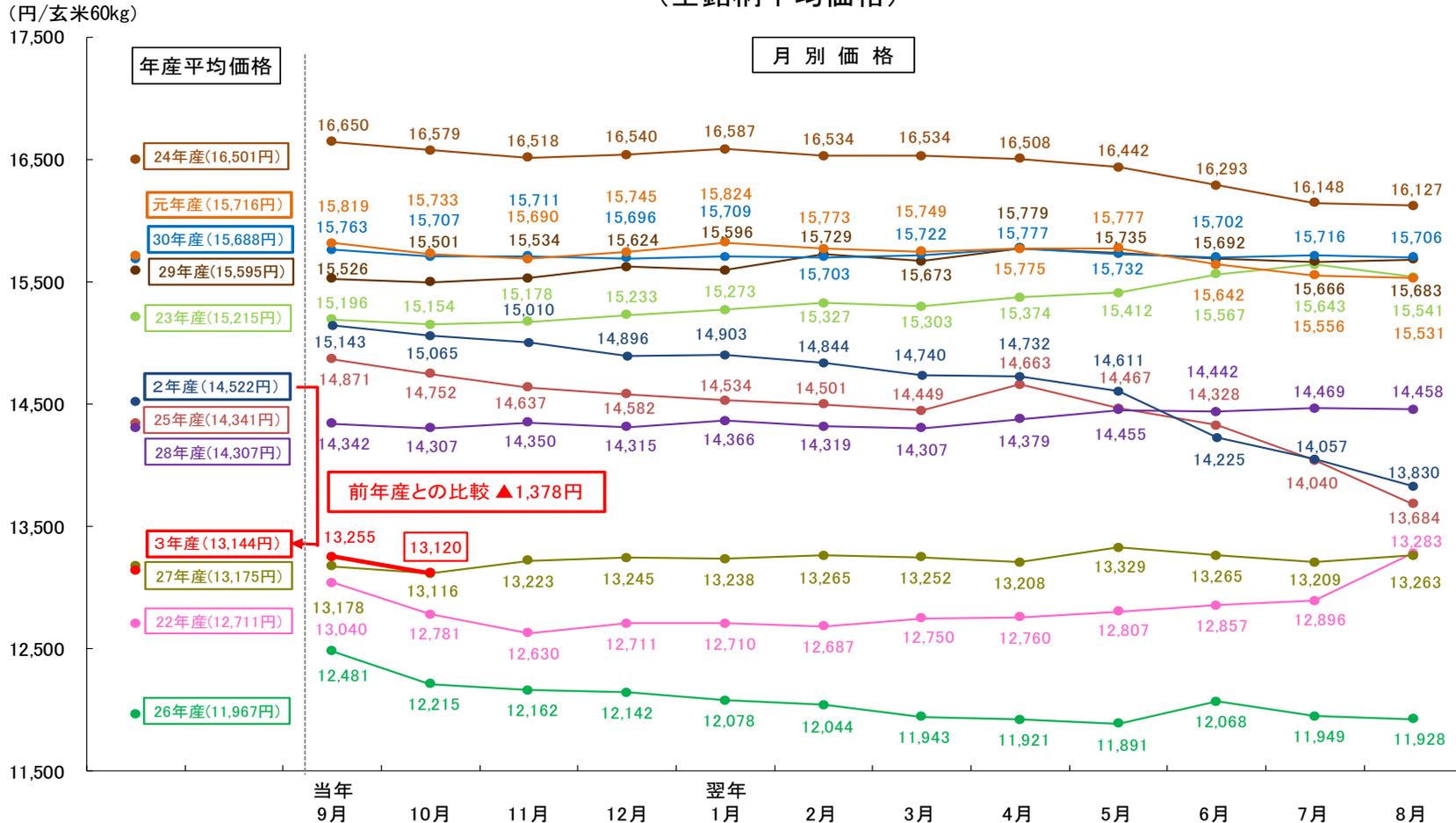
注:1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

相対取引価格の推移(平成22年産～令和2年産)

○ 令和3年産米の令和3年10月の相対取引価格は、全銘柄平均で前月差▲135円の13,120円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産▲1,378円の13,144円/60kgとなったところ。

相対取引価格の推移(税込)
(全銘柄平均価格)



資料：農林水産省調べ

注1：運賃、包装代、消費税相当額(平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%)を含む1等米の価格である。

注2：グラフの左側は各年産の通年平均価格(当該年産の出回りから翌年10月(2年産、3年産は令和3年10月までの速報値)まで)、右側は月ごとの価格の推移。

令和3年産米の相対取引価格(令和3年10月の年産平均価格)

(単位:円/玄米60kg(税込))

| 産地品種銘柄 | | 令和3年産 〔出回り～ 3年10月〕 ① | 令和2年産 〔出回り～ 3年10月〕 ② | 価格差 ①-② |
|--------|------------|-------------------------------|-------------------------------|------------|
| 北海道 | ななつぼし | 12,619 | 14,382 | ▲ 1,763 |
| 北海道 | ゆめぴりか | 16,221 | 16,945 | ▲ 724 |
| 北海道 | きらら397 | 12,671 | 13,379 | ▲ 708 |
| 青森 | まつしぐら | 12,105 | 12,657 | ▲ 552 |
| 青森 | つがるロマン | 11,100 | 13,379 | ▲ 2,279 |
| 岩手 | ひとめぼれ | 12,988 | 14,390 | ▲ 1,402 |
| 岩手 | あきたこまち | 12,924 | 13,349 | ▲ 425 |
| 岩手 | 銀河のしずく | 13,543 | 15,361 | ▲ 1,818 |
| 宮城 | ひとめぼれ | 12,281 | 14,085 | ▲ 1,804 |
| 宮城 | つや姫 | 13,186 | 14,508 | ▲ 1,322 |
| 宮城 | ササニシキ | 12,893 | 13,819 | ▲ 926 |
| 秋田 | あきたこまち | 13,221 | 14,450 | ▲ 1,229 |
| 秋田 | めんこいな | 12,337 | 13,040 | ▲ 703 |
| 秋田 | ひとめぼれ | 12,292 | 13,275 | ▲ 983 |
| 山形 | はえぬき | 12,703 | 13,962 | ▲ 1,259 |
| 山形 | つや姫 | 18,586 | 18,540 | + 46 |
| 山形 | 雪若丸 | 13,221 | - | - |
| 福島 | コシヒカリ(中通り) | 11,617 | 13,276 | ▲ 1,659 |
| 福島 | コシヒカリ(会津) | 12,612 | 14,899 | ▲ 2,287 |
| 福島 | コシヒカリ(浜通り) | 11,682 | 13,603 | ▲ 1,921 |
| 福島 | ひとめぼれ | 11,235 | 13,048 | ▲ 1,813 |
| 福島 | 天のつぶ | 12,447 | 12,531 | ▲ 84 |
| 茨城 | コシヒカリ | 11,975 | 13,379 | ▲ 1,404 |
| 茨城 | あきたこまち | 11,263 | 13,536 | ▲ 2,273 |
| 茨城 | あさひの夢 | - | 12,737 | - |
| 栃木 | コシヒカリ | 12,239 | 13,383 | ▲ 1,144 |
| 栃木 | あさひの夢 | 10,263 | 12,390 | ▲ 2,127 |
| 栃木 | とちぎの星 | 9,462 | 11,668 | ▲ 2,206 |
| 群馬 | あさひの夢 | - | 12,412 | - |
| 群馬 | ゆめまつり | - | 11,744 | - |
| 埼玉 | 彩のかがやき | 11,527 | 11,799 | ▲ 272 |
| 埼玉 | 彩のきずな | 12,895 | 12,046 | + 849 |
| 埼玉 | コシヒカリ | 12,595 | 12,515 | + 80 |
| 千葉 | コシヒカリ | 11,510 | 13,554 | ▲ 2,044 |
| 千葉 | ふさこがね | 10,190 | 12,955 | ▲ 2,765 |
| 千葉 | ふさおとめ | 10,756 | 13,363 | ▲ 2,607 |
| 山梨 | コシヒカリ | 17,857 | 18,259 | ▲ 402 |
| 長野 | コシヒカリ | 14,213 | 14,953 | ▲ 740 |
| 長野 | あきたこまち | 13,663 | 14,835 | ▲ 1,172 |
| 静岡 | コシヒカリ | 14,578 | 15,531 | ▲ 953 |

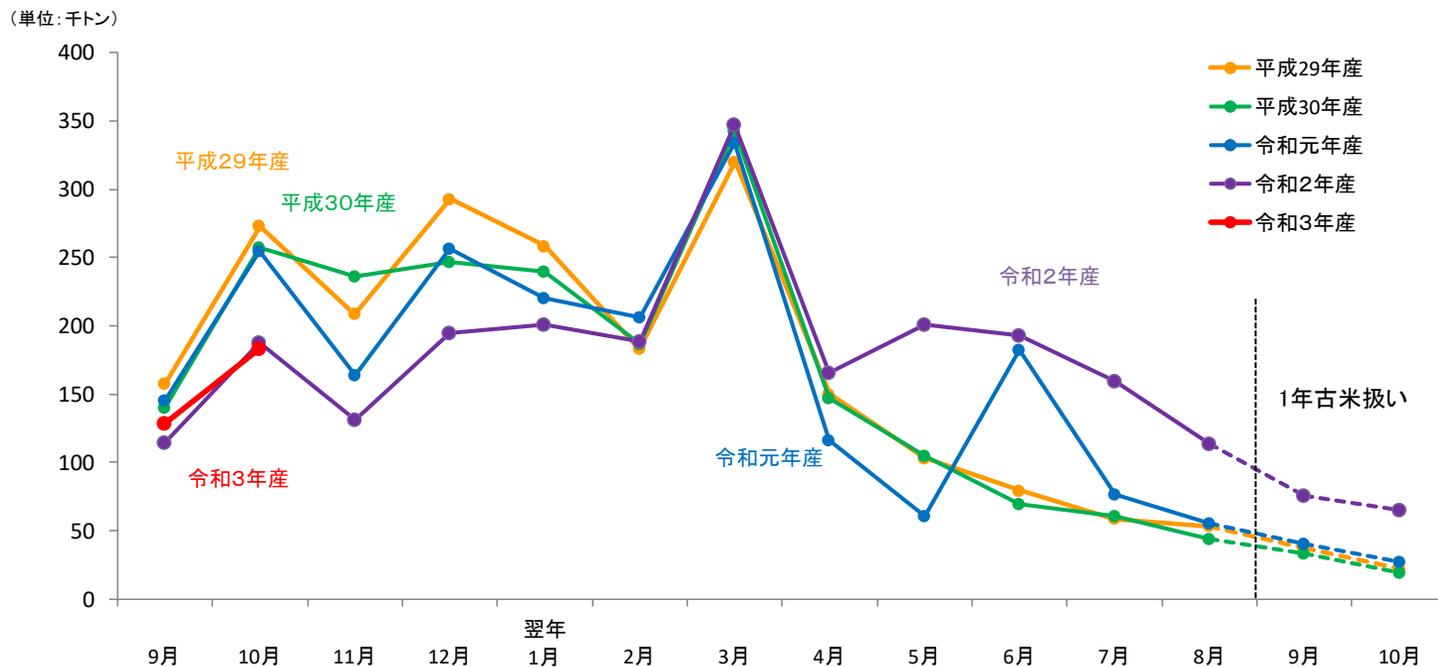
| 産地品種銘柄 | | 令和3年産 〔出回り～ 3年10月〕 ① | 令和2年産 〔出回り～ 3年10月〕 ② | 価格差 ①-② |
|--------|-----------|-------------------------------|-------------------------------|------------|
| 静岡 | きぬむすめ | - | 14,776 | - |
| 静岡 | あいちのかおり | - | 14,726 | - |
| 新潟 | コシヒカリ(一般) | 15,689 | 16,526 | ▲ 837 |
| 新潟 | コシヒカリ(魚沼) | 20,183 | 20,307 | ▲ 124 |
| 新潟 | コシヒカリ(佐渡) | 16,192 | 17,059 | ▲ 867 |
| 新潟 | コシヒカリ(岩船) | 16,184 | 16,926 | ▲ 742 |
| 新潟 | こしいぶき | 12,787 | 14,247 | ▲ 1,460 |
| 富山 | コシヒカリ | 13,607 | 15,478 | ▲ 1,871 |
| 富山 | てんたく | 12,611 | 14,495 | ▲ 1,884 |
| 石川 | コシヒカリ | 14,252 | 15,293 | ▲ 1,041 |
| 石川 | ゆめみづほ | 12,715 | 14,142 | ▲ 1,427 |
| 福井 | コシヒカリ | 13,793 | 15,602 | ▲ 1,809 |
| 福井 | ハナエチゼン | 12,261 | 14,365 | ▲ 2,104 |
| 福井 | あきさかり | 11,839 | 14,215 | ▲ 2,376 |
| 岐阜 | ハツシモ | 13,056 | 14,642 | ▲ 1,586 |
| 岐阜 | コシヒカリ | 14,263 | 14,904 | ▲ 641 |
| 岐阜 | あさひの夢 | - | 13,454 | - |
| 愛知 | あいちのかおり | 13,131 | 13,860 | ▲ 729 |
| 愛知 | コシヒカリ | 12,525 | 14,524 | ▲ 1,999 |
| 愛知 | 大地の風 | - | 14,118 | - |
| 三重 | コシヒカリ(一般) | 12,708 | 14,859 | ▲ 2,151 |
| 三重 | コシヒカリ(伊賀) | 13,162 | 15,361 | ▲ 2,199 |
| 三重 | キヌヒカリ | 10,964 | 13,952 | ▲ 2,988 |
| 滋賀 | コシヒカリ | 14,084 | 15,249 | ▲ 1,165 |
| 滋賀 | キヌヒカリ | 12,607 | 14,195 | ▲ 1,588 |
| 滋賀 | みずかがみ | 13,727 | 15,111 | ▲ 1,384 |
| 京都 | コシヒカリ | 13,881 | 15,808 | ▲ 1,927 |
| 京都 | キヌヒカリ | 11,943 | 14,999 | ▲ 3,056 |
| 京都 | ヒノヒカリ | - | 15,872 | - |
| 兵庫 | コシヒカリ | 13,955 | 15,452 | ▲ 1,497 |
| 兵庫 | ヒノヒカリ | 12,350 | 13,786 | ▲ 1,436 |
| 兵庫 | キヌヒカリ | 12,197 | 13,978 | ▲ 1,781 |
| 奈良 | ヒノヒカリ | - | 14,630 | - |
| 鳥取 | きぬむすめ | 12,961 | 14,233 | ▲ 1,272 |
| 鳥取 | コシヒカリ | 13,393 | 14,855 | ▲ 1,462 |
| 鳥取 | ひとめぼれ | 12,631 | 14,031 | ▲ 1,400 |
| 島根 | コシヒカリ | 13,673 | 15,397 | ▲ 1,724 |
| 島根 | きぬむすめ | 12,774 | 14,500 | ▲ 1,726 |
| 島根 | つや姫 | 13,389 | 15,234 | ▲ 1,845 |
| 岡山 | アケボノ | 10,386 | 13,242 | ▲ 2,856 |

| 産地品種銘柄 | | 令和3年産 〔出回り～ 3年10月〕 ① | 令和2年産 〔出回り～ 3年10月〕 ② | 価格差 ①-② |
|---------|--------|-------------------------------|-------------------------------|------------|
| 岡山 | コシヒカリ | 12,612 | - | - |
| 岡山 | きぬむすめ | 11,495 | 14,411 | ▲ 2,916 |
| 広島 | コシヒカリ | 13,838 | 14,973 | ▲ 1,135 |
| 広島 | あきさかり | 13,182 | 13,926 | ▲ 744 |
| 広島 | あきろまん | 13,068 | 14,116 | ▲ 1,048 |
| 山口 | コシヒカリ | 13,757 | 15,214 | ▲ 1,457 |
| 山口 | ひとめぼれ | 13,010 | 14,484 | ▲ 1,474 |
| 山口 | ヒノヒカリ | 12,656 | 14,409 | ▲ 1,753 |
| 徳島 | コシヒカリ | 12,573 | 14,947 | ▲ 2,374 |
| 徳島 | あきさかり | 11,136 | 12,066 | ▲ 930 |
| 香川 | コシヒカリ | - | 15,406 | - |
| 香川 | ヒノヒカリ | - | 14,866 | - |
| 香川 | おいでまい | - | 15,406 | - |
| 愛媛 | コシヒカリ | 14,633 | 15,456 | ▲ 823 |
| 愛媛 | ヒノヒカリ | - | 14,861 | - |
| 愛媛 | あきたこまち | 13,907 | 14,777 | ▲ 870 |
| 高知 | コシヒカリ | 13,555 | 15,021 | ▲ 1,466 |
| 高知 | ヒノヒカリ | 12,711 | 14,291 | ▲ 1,580 |
| 福岡 | 夢つくし | 15,538 | 16,321 | ▲ 783 |
| 福岡 | ヒノヒカリ | 14,174 | 15,433 | ▲ 1,259 |
| 福岡 | 元氣つくし | 15,231 | 16,154 | ▲ 923 |
| 佐賀 | 夢しずく | 13,843 | 14,539 | ▲ 696 |
| 佐賀 | さがびより | 13,971 | 15,129 | ▲ 1,158 |
| 佐賀 | ヒノヒカリ | - | 14,263 | - |
| 長崎 | ヒノヒカリ | - | 14,803 | - |
| 長崎 | にこまる | - | 15,090 | - |
| 長崎 | コシヒカリ | 15,189 | 15,891 | ▲ 702 |
| 熊本 | ヒノヒカリ | 13,378 | 15,410 | ▲ 2,032 |
| 熊本 | 森のくまさん | - | 15,056 | - |
| 熊本 | コシヒカリ | 14,690 | 16,259 | ▲ 1,569 |
| 大分 | ヒノヒカリ | 14,004 | 15,337 | ▲ 1,333 |
| 大分 | ひとめぼれ | 13,602 | 15,258 | ▲ 1,656 |
| 大分 | つや姫 | 14,229 | 15,392 | ▲ 1,163 |
| 宮崎 | コシヒカリ | - | 15,292 | - |
| 宮崎 | ヒノヒカリ | - | 15,960 | - |
| 鹿児島 | ヒノヒカリ | 13,211 | 16,595 | ▲ 3,384 |
| 鹿児島 | あきほなみ | - | 17,073 | - |
| 鹿児島 | コシヒカリ | 14,764 | 16,323 | ▲ 1,559 |
| 全銘柄平均価格 | | 13,144 | 14,522 | ▲ 1,378 |

注1:農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格(令和2年産、令和3年産は令和3年10月までの速報値)であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者(年間の販売数量5,000トン以上等)。
 2:運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、令和元年10月以降は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。
 3:「-」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

相対取引契約数量の推移

○ 令和2年産米の相対取引契約数量は、出来秋以降、令和3年1月まで低調に推移。しかし、その後回復基調にあり、特に5月以降は、3年産の主食用米からの作付転換の進展が見込まれることなどから、近年で最も多い契約数量となっている。



| 年産 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 翌年 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|-----|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-------|
| 平成29年産 | 158 | 273 | 209 | 293 | 258 | 183 | 320 | 150 | 103 | 79 | 59 | 53 | 37 | 22 | 2,241 |
| 平成30年産 | 140 | 258 | 236 | 247 | 240 | 187 | 343 | 147 | 105 | 70 | 61 | 44 | 33 | 19 | 2,193 |
| 令和元年産 | 145 | 254 | 164 | 257 | 221 | 207 | 334 | 117 | 61 | 183 | 76 | 55 | 41 | 27 | 2,191 |
| 令和2年産 | 115 | 188 | 131 | 195 | 201 | 189 | 347 | 166 | 201 | 193 | 159 | 113 | 76 | 65 | 2,371 |
| 令和3年産 | 129 | 183 | | | | | | | | | | | | | |

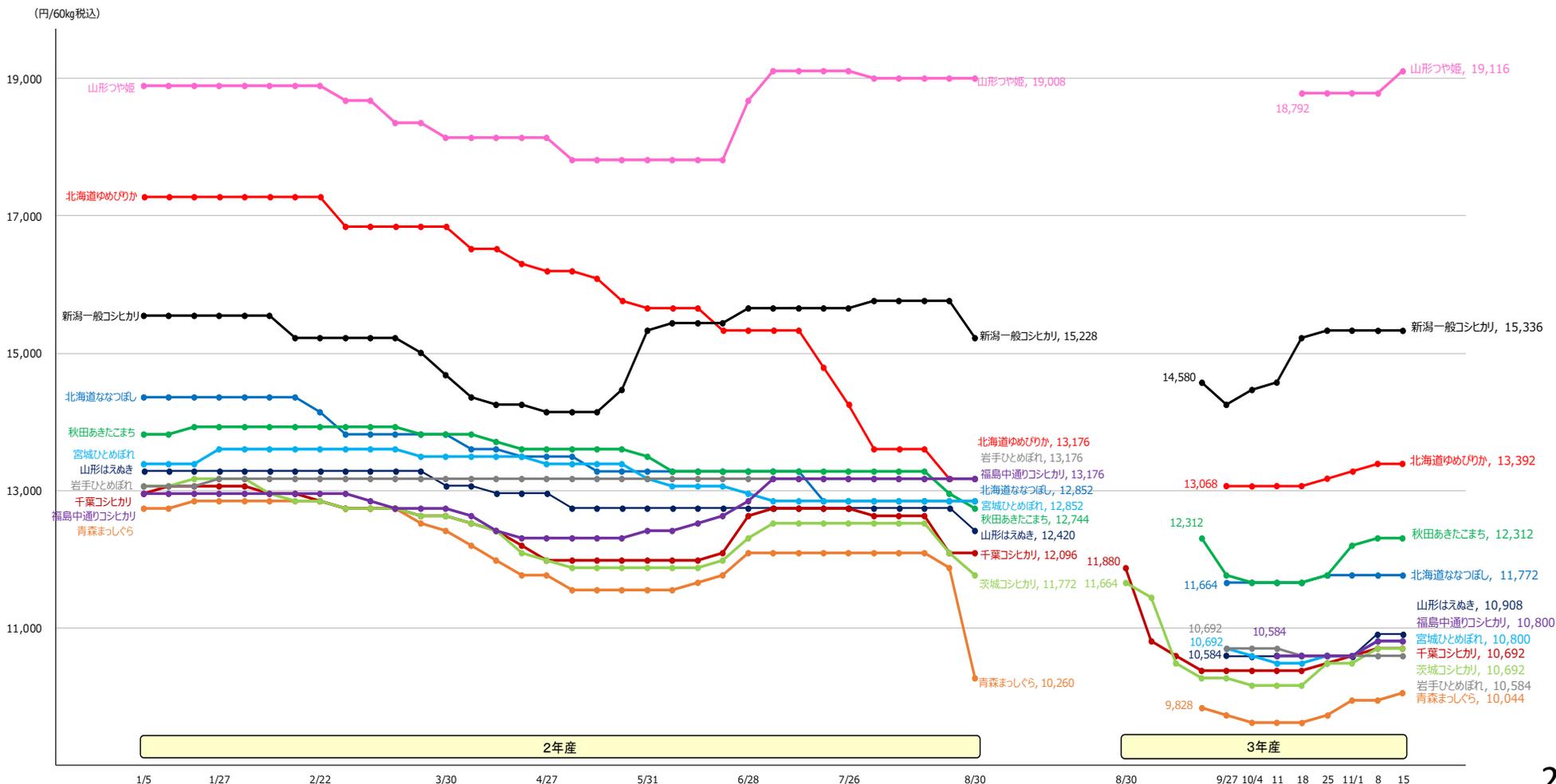
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
- 2 相対取引数量は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の数量の合計（2年産、3年産はいずれも速報値）である。
- 3 相対取引数量の合計欄は、出回りから生産年の翌年10月（2年産、3年産は令和3年10月）までの数量であるため、各月の合計と一致しない。

(参考) 令和2・3年産米のスポット価格の推移(令和3年11月15日時点)

○ 令和3年産のスポット価格については、2年産の出来秋に比べ、低い水準で取引がスタートしたが、10月中旬以降、一部銘柄を除いて、回復基調で推移。

(参考) スポット取引: 主に中小規模の卸売業者間で行う、10トン~数十トン程度の小ロットの売買。



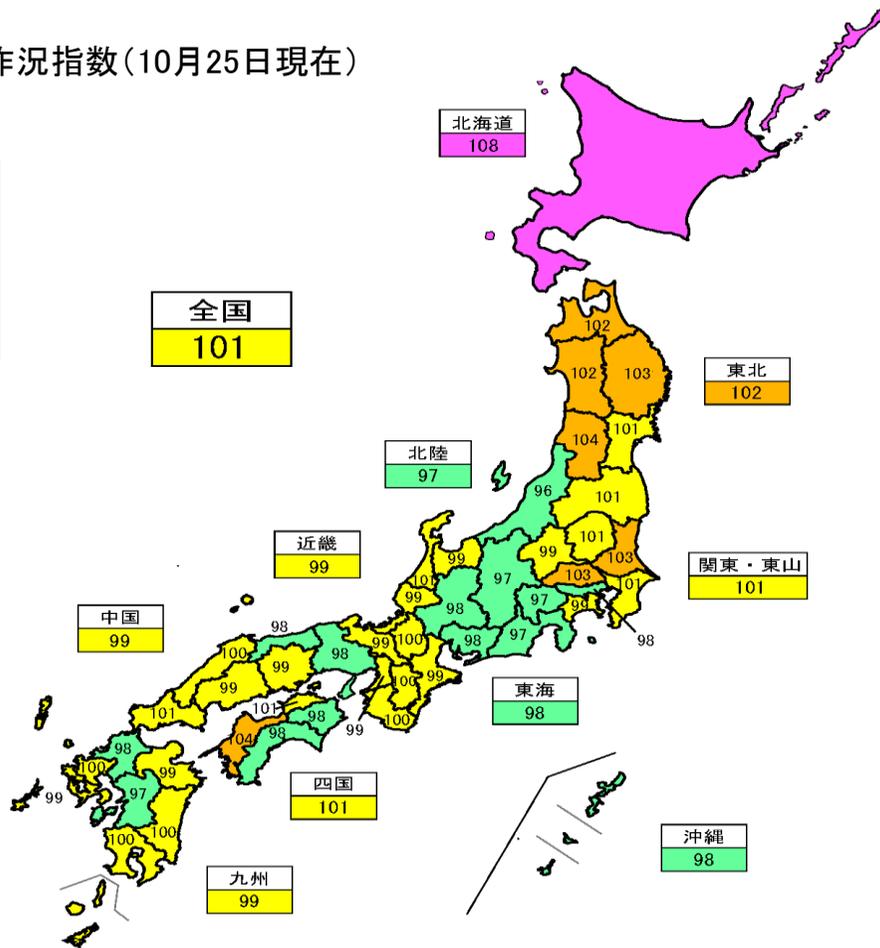
注: スポット価格は、米穀データバンク発行「日刊・米穀市況速報」(関東相場、東京着地基準、下限値、税抜)の価格を農林水産省が税込に加工。

令和3年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量

- 令和3年産水稻の作付面積(子実用)は140万3,000haで、前年産に比べ5万9,000ha減少した。うち主食用作付面積は130万3,000haで、前年産に比べ6万3,000ha減少した。
- 全国の10a当たり予想収量は539kgが見込まれる。
- 以上の結果、予想収穫量(子実用)は756万3,000tで、前年産に比べ20万tの減少が見込まれる。このうち、主食用の予想収穫量は700万7,000tで、前年産に比べ21万9,000tの減少が見込まれる。
- なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101となる見込み。

全国農業地域・都道府県別作況指数(10月25日現在)

| 作柄の良否(作況指数) | |
|-------------|---------------|
| | 良 (106以上) |
| | やや良 (105～102) |
| | 平年並み (101～99) |
| | やや不良 (98～95) |



令和3年産の水田における作付状況(令和3年9月15日時点)①

- ・ 全国の主食用米の作付面積については、前年実績（136.6万ha）から6.3万ha減少（▲4.6%）し、130.3万haとなった。
- ・ また、戦略作物等については、飼料用米、加工用米、米粉用米、麦等が前年より増加した。

【主食用米及び戦略作物等の作付状況】

(万ha)

| | 主食用米 | 戦略作物等 | | | | | | | | 備蓄米 | |
|-------|-------|-------|-------|-----------------------|------|------------------------|------|-----|------|------|---------------|
| | | 加工用米 | 新規需要米 | | | | 麦 | 大豆 | その他 | | 戦略作物等 合計面積 |
| | | | 飼料用米 | WCS用稲 (稲壳・糠・粗飼料用稲) | 米粉用米 | 新市場 開拓用米 (輸出用米等) | | | | | |
| H27年産 | 140.6 | 4.7 | 8.0 | 3.8 | 0.4 | 0.2 | 9.9 | 8.7 | 10.0 | 45.7 | 4.5 |
| H28年産 | 138.1 | 5.1 | 9.1 | 4.1 | 0.3 | 0.1 | 9.9 | 8.9 | 10.2 | 47.7 | 4.0 |
| H29年産 | 137.0 | 5.2 | 9.2 | 4.3 | 0.5 | 0.1 | 9.8 | 9.0 | 10.2 | 48.3 | 3.5 |
| H30年産 | 138.6 | 5.1 | 8.0 | 4.3 | 0.5 | 0.4 | 9.7 | 8.8 | 10.2 | 47.0 | 2.2 |
| R元年産 | 137.9 | 4.7 | 7.3 | 4.2 | 0.5 | 0.4 | 9.7 | 8.6 | 10.2 | 45.6 | 3.3 |
| R2年産 | 136.6 | 4.5 | 7.1 | 4.3 | 0.6 | 0.6 | 9.8 | 8.5 | 10.2 | 45.6 | 3.7 |
| R3年産 | 130.3 | 4.8 | 11.6 | 4.4 | 0.8 | 0.7 | 10.2 | 8.5 | 10.2 | 51.2 | 3.6 |

注1：加工用米及び新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS、新市場開拓用米）は取組計画の認定面積。

注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。

注3：その他は、飼料作物、そば、なたねの面積。

注4：麦、大豆、その他（基幹作のみ）は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積。

令和3年産の水田における作付状況(令和3年9月15日時点)②

| 都道府県 | 主食用米 | | | 戦略作物等 | | | | | | | | | | 備蓄米 | |
|------|---------|-------------------|-----------|--------|---------|---------------------|-------|------------------------|-----|---------|--------|--------|--------|-----|--------|
| | ① | 【参考】 | | 加工用米 | 新規需要米 | | | | | 麦 | 大豆 | 飼料作物 | そば | | なたね |
| | | 前年産 (2年産) ② | 増減 ①-② | | 飼料用米 | WCS 稲発酵 粗飼料用稲 | 米粉用米 | 新市場 開拓用米 (輸出用米等) | その他 | | | | | | |
| 全国計 | 130.3万 | 136.6万 | ▲6.3万 | 47,641 | 115,744 | 44,248 | 7,632 | 6,748 | 124 | 101,760 | 85,484 | 72,917 | 28,210 | 752 | 36,435 |
| 北海道 | 88,400 | 95,300 | ▲6,900 | 6,178 | 6,513 | 620 | 72 | 1,066 | - | 35,215 | 18,599 | 25,867 | 8,603 | 543 | 387 |
| 青森 | 34,200 | 38,300 | ▲4,100 | 853 | 7,701 | 660 | 16 | 283 | - | 578 | 4,414 | 4,883 | 1,227 | 10 | 6,360 |
| 岩手 | 46,200 | 48,200 | ▲2,000 | 1,196 | 4,683 | 1,939 | 71 | 343 | 1 | 3,310 | 3,764 | 7,794 | 625 | 15 | 656 |
| 宮城 | 61,000 | 64,500 | ▲3,500 | 581 | 8,076 | 2,244 | 150 | 748 | 1 | 1,892 | 9,175 | 5,363 | 447 | 1 | 2,130 |
| 秋田 | 71,400 | 75,300 | ▲3,900 | 8,855 | 3,903 | 1,106 | 425 | 296 | 2 | 170 | 8,139 | 2,150 | 3,181 | 12 | 3,723 |
| 山形 | 54,900 | 56,500 | ▲1,600 | 3,876 | 4,628 | 966 | 112 | 285 | 3 | 73 | 4,413 | 2,784 | 4,591 | 5 | 3,728 |
| 福島 | 54,700 | 59,200 | ▲4,500 | 397 | 10,038 | 1,031 | 7 | 38 | 1 | 273 | 711 | 1,692 | 1,794 | 51 | 5,335 |
| 茨城 | 61,400 | 65,500 | ▲4,100 | 1,135 | 11,760 | 571 | 43 | 441 | 3 | 4,298 | 423 | 491 | 339 | 4 | 453 |
| 栃木 | 50,600 | 54,900 | ▲4,300 | 1,512 | 12,482 | 1,769 | 1,099 | 93 | 4 | 6,866 | 343 | 2,927 | 1,077 | 1 | 1,485 |
| 群馬 | 13,000 | 13,600 | ▲600 | 1,350 | 1,321 | 539 | 369 | 4 | - | 1,913 | 102 | 185 | 34 | 2 | 152 |
| 埼玉 | 28,800 | 30,600 | ▲1,800 | 118 | 2,910 | 116 | 912 | 41 | - | 1,856 | 341 | 121 | 44 | 3 | 94 |
| 千葉 | 48,100 | 52,500 | ▲4,400 | 1,499 | 8,190 | 995 | 84 | 13 | - | 477 | 281 | 350 | 7 | 1 | 922 |
| 東京 | 120 | 124 | ▲4 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 神奈川 | 2,920 | 2,990 | ▲70 | - | 10 | 0 | - | - | - | 4 | 6 | 6 | 1 | - | - |
| 新潟 | 101,800 | 106,700 | ▲4,900 | 7,097 | 3,768 | 400 | 2,145 | 1,497 | 0 | 139 | 3,745 | 297 | 776 | - | 4,529 |
| 富山 | 32,200 | 33,200 | ▲1,000 | 1,215 | 1,952 | 453 | 178 | 416 | - | 2,999 | 3,446 | 273 | 229 | 15 | 2,271 |
| 石川 | 21,400 | 22,600 | ▲1,200 | 386 | 1,389 | 99 | 350 | 81 | - | 927 | 896 | 26 | 144 | 0 | 1,486 |
| 福井 | 22,500 | 23,300 | ▲800 | 348 | 1,490 | 97 | 196 | 156 | - | 4,732 | 114 | 44 | 485 | - | 1,251 |
| 山梨 | 4,760 | 4,800 | ▲40 | 76 | 18 | 15 | 12 | - | - | 57 | 98 | 26 | 110 | 0 | - |
| 長野 | 30,400 | 30,700 | ▲300 | 615 | 362 | 215 | 18 | 158 | - | 2,385 | 534 | 531 | 2,263 | 0 | 233 |
| 岐阜 | 20,700 | 21,400 | ▲700 | 616 | 3,009 | 208 | 48 | 73 | - | 3,445 | 378 | 611 | 268 | - | 92 |
| 静岡 | 15,200 | 15,400 | ▲200 | 140 | 1,075 | 297 | 2 | 1 | - | 256 | 45 | 40 | 32 | - | 4 |
| 愛知 | 25,800 | 26,400 | ▲600 | 421 | 2,086 | 156 | 53 | 37 | 0 | 5,317 | 95 | 129 | 5 | 9 | 166 |
| 三重 | 25,900 | 26,700 | ▲800 | 197 | 2,043 | 268 | 91 | 37 | - | 6,693 | 316 | 119 | 12 | 16 | 53 |

※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

令和3年産の水田における作付状況(令和3年9月15日時点)③

| 都道府県 | 主食用米 | | | 戦略作物等 | | | | | | | | | | | 備蓄米 |
|------|--------|-------------------|-----------|-------|-------|---------------------|------|------------------------|-----|-------|-------|-------|-----|-----|-----|
| | ① | 【参考】 | | 加工用米 | 新規需要米 | | | | | 麦 | 大豆 | 飼料作物 | そば | なたね | |
| | | 前年産 (2年産) ② | 増減 ①-② | | 飼料用米 | WCS 稲発酵 粗飼料用稲 | 米粉用米 | 新市場 開拓用米 (輸出用米等) | その他 | | | | | | |
| 滋賀 | 28,900 | 29,700 | ▲ 800 | 644 | 1,681 | 277 | 58 | 203 | - | 7,462 | 468 | 159 | 114 | 20 | 268 |
| 京都 | 13,600 | 13,800 | ▲ 200 | 562 | 101 | 120 | 9 | 15 | - | 256 | 241 | 56 | 110 | - | - |
| 大阪 | 4,620 | 4,700 | ▲ 80 | 0 | 6 | - | 5 | - | 0 | 3 | 6 | 1 | 0 | - | - |
| 兵庫 | 34,100 | 34,800 | ▲ 700 | 726 | 554 | 866 | 34 | 163 | 5 | 1,751 | 1,833 | 794 | 152 | 13 | - |
| 奈良 | 8,400 | 8,430 | ▲ 30 | 19 | 34 | 40 | 30 | 0 | - | 62 | 25 | 4 | 0 | 0 | - |
| 和歌山 | 6,100 | 6,250 | ▲ 150 | - | 2 | 2 | 1 | - | - | 3 | 13 | 4 | 2 | - | - |
| 鳥取 | 12,400 | 12,800 | ▲ 400 | 24 | 707 | 338 | 1 | 5 | 0 | 23 | 599 | 784 | 308 | 2 | 79 |
| 島根 | 16,500 | 16,800 | ▲ 300 | 303 | 779 | 569 | 9 | 2 | 1 | 263 | 575 | 436 | 315 | 3 | 25 |
| 岡山 | 27,900 | 28,900 | ▲ 1,000 | 316 | 1,730 | 346 | 124 | 126 | - | 1,260 | 1,102 | 877 | 112 | 0 | 181 |
| 広島 | 21,700 | 22,000 | ▲ 300 | 320 | 424 | 585 | 124 | 21 | 0 | 309 | 232 | 934 | 257 | - | 4 |
| 山口 | 17,400 | 17,800 | ▲ 400 | 971 | 978 | 313 | 38 | 2 | 1 | 740 | 750 | 897 | 49 | 0 | - |
| 徳島 | 9,980 | 10,700 | ▲ 720 | 20 | 881 | 217 | 11 | 41 | - | 56 | 9 | 93 | 2 | - | 244 |
| 香川 | 11,300 | 11,600 | ▲ 300 | 38 | 139 | 142 | 7 | 1 | - | 1,138 | 54 | 123 | 15 | 1 | - |
| 愛媛 | 13,200 | 13,300 | ▲ 100 | 43 | 271 | 159 | 2 | - | - | 514 | 315 | 220 | 3 | - | - |
| 高知 | 11,000 | 11,200 | ▲ 200 | 68 | 991 | 263 | 17 | - | - | 4 | 59 | 125 | 1 | - | 2 |
| 福岡 | 34,100 | 34,400 | ▲ 300 | 228 | 2,192 | 1,657 | 327 | 8 | - | 1,583 | 7,830 | 407 | 46 | 3 | 16 |
| 佐賀 | 22,800 | 23,400 | ▲ 600 | 383 | 730 | 1,700 | 29 | 4 | 0 | 948 | 6,929 | 367 | 14 | 2 | 44 |
| 長崎 | 10,800 | 11,000 | ▲ 200 | 10 | 112 | 1,307 | 5 | 3 | - | 70 | 295 | 1,891 | 42 | 2 | - |
| 熊本 | 31,200 | 32,300 | ▲ 1,100 | 757 | 1,295 | 7,994 | 300 | 21 | 71 | 775 | 2,051 | 2,150 | 183 | 9 | 45 |
| 大分 | 19,400 | 20,000 | ▲ 600 | 136 | 1,565 | 2,432 | 15 | - | - | 579 | 1,242 | 974 | 83 | 5 | 19 |
| 宮崎 | 13,900 | 14,300 | ▲ 400 | 1,926 | 486 | 6,700 | 16 | 26 | 28 | 18 | 204 | 2,788 | 41 | 0 | - |
| 鹿児島 | 17,100 | 17,800 | ▲ 700 | 1,451 | 679 | 3,451 | 11 | 1 | 2 | 67 | 272 | 2,102 | 67 | 2 | - |
| 沖縄 | 623 | 630 | ▲ 7 | 37 | - | 5 | 7 | - | - | - | - | 20 | - | - | - |

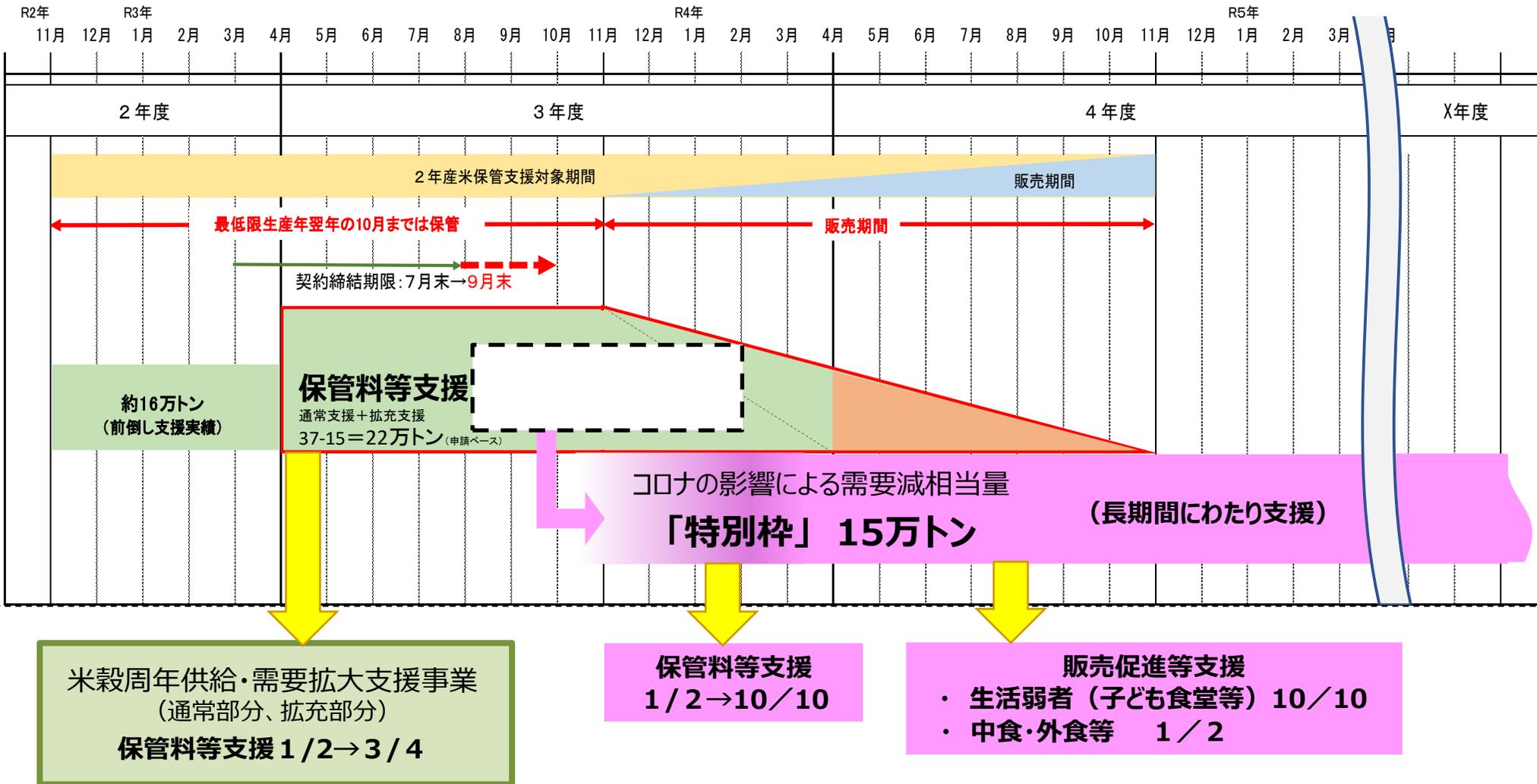
※1 主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米面積。

※2 加工用米及び新規需要米は取組計画の認定面積で、備蓄米は地域農業再生協議会が把握した面積。

※3 麦、大豆、飼料作物、そば、なたねは地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

米穀周年供給・需要拡大支援事業とコロナ影響緩和特別対策による支援イメージ

【令和2年産米の保管経費等の拡充支援イメージ】

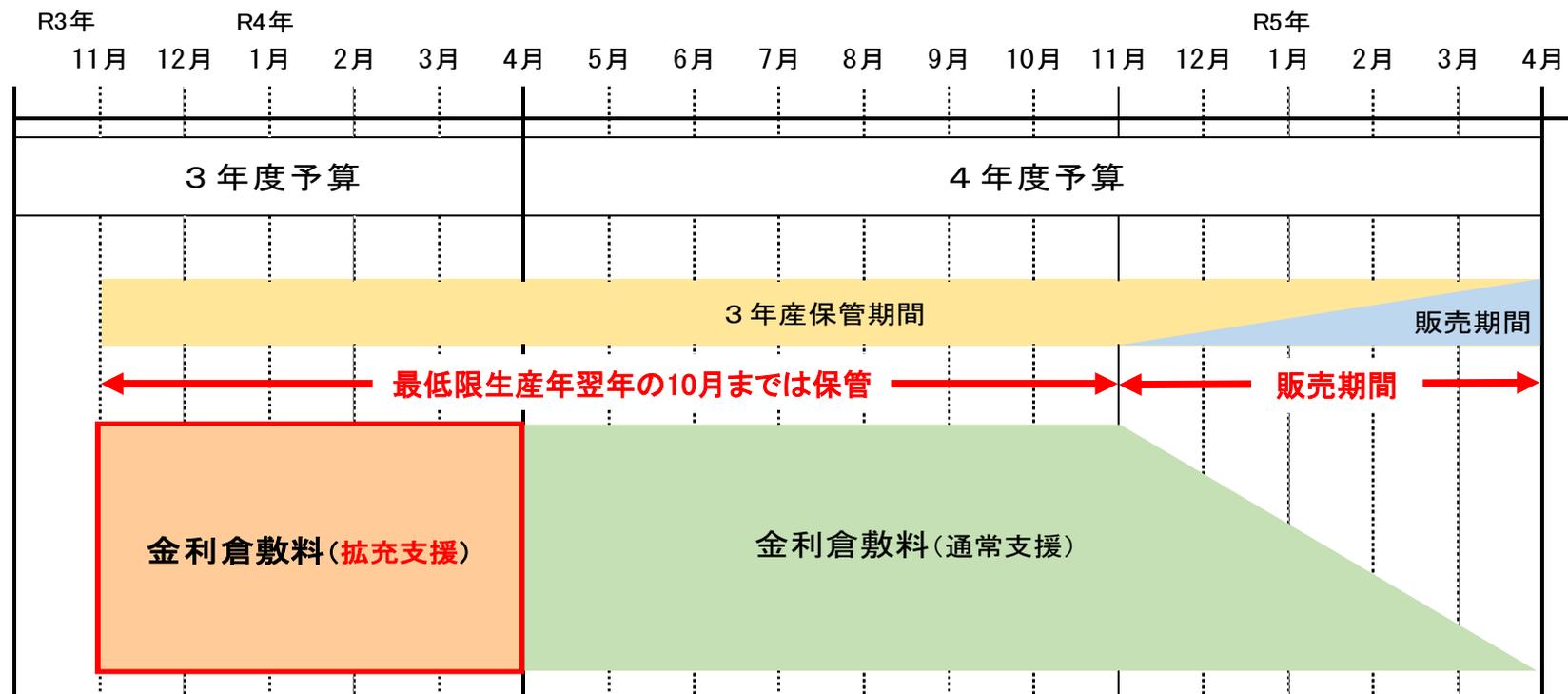


※ 保管経費等の支援の拡充：国費及び民間団体における資金で対応

米穀周年供給・需要拡大支援事業（3年度当初：5,033百万円）による支援

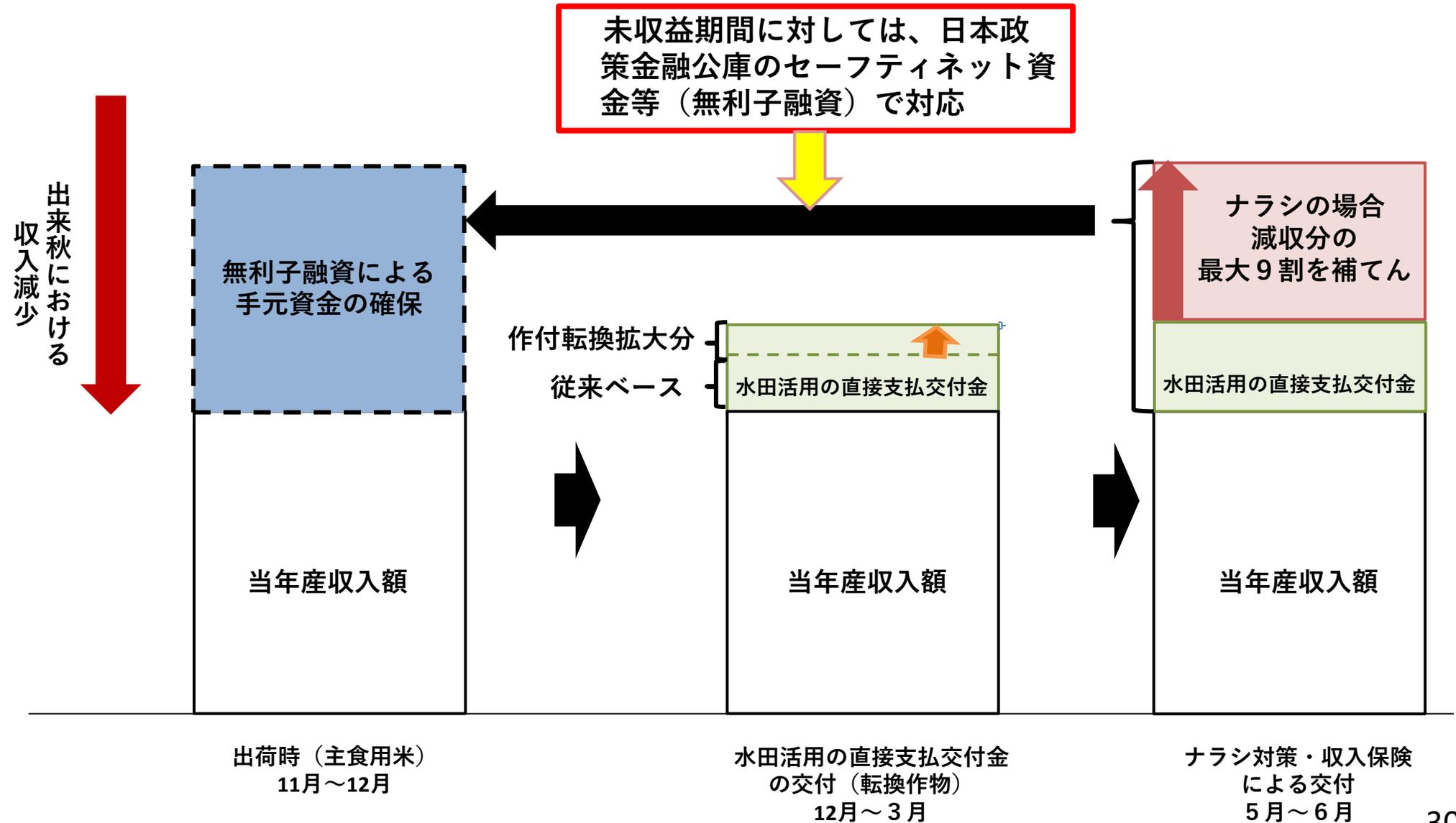
- 新型コロナウイルス感染症の影響等による需要の減少により令和2年産米の販売が長期に及んでいる状況を踏まえ、令和3年産米についても市場環境を整備する必要。
- 各産地自らが長期計画的な販売に確実に取り組めるよう、令和3年産米について、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」による保管経費等の支援対象期間等を拡充（令和4年4月からを5か月間前倒しし、令和3年11月から支援。）。

【令和3年産の保管経費等の支援（前倒し）のイメージ】



※ 支援対象経費
 金利：販売時期が遅れることにより増加する概算金支払に係る借入金の支払利息
 倉敷：米穀の保管経費
 集約経費：対象米穀の営業倉庫等への集約運送に要する経費

水田活用の直接支払交付金、ナラシ・収入保険の支払いまでの未収益期間に対する融資の拡充



ナラシ対策：令和3年産米の作況を踏まえた当年産収入額及び補てん額試算

【全国：作況101】(令和3年10月25日現在)

R3年産米価がR2年産米価^{※1} (14,522円/60kg) から

▲1,000円/60kgの場合

▲1,500円/60kgの場合

▲2,000円/60kgの場合

R2当年産収入額^{※2} + ナラシ補てん額

123,811円/10a

R3当年産収入額^{※3} + ナラシ補てん額 (試算)

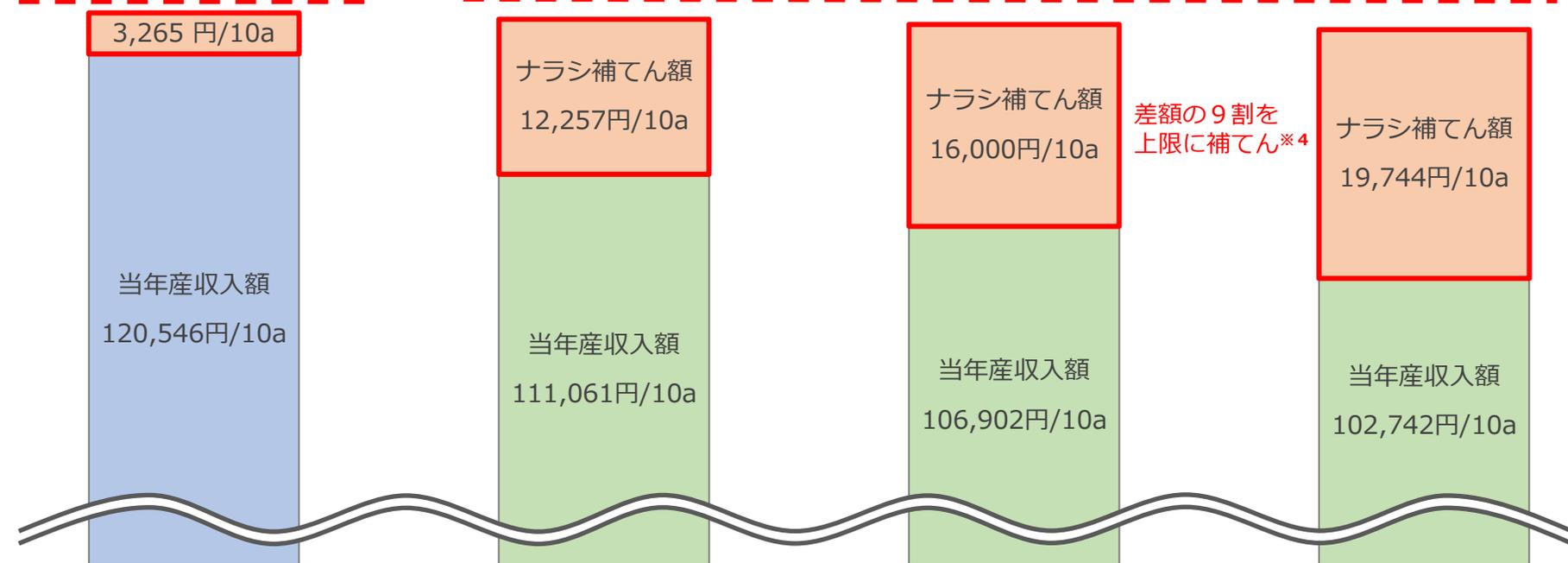
123,318円/10a

122,902円/10a

122,486円/10a

R2標準的収入額 124,174円/10a

R3標準的収入額 124,680円/10a



※1 R2年産米価は、出回りからR3年10月までの全国の全銘柄平均価格（包装代、消費税含む）。

※2 R2当年産収入額は、R2年産水稻の10a当たり収量に、R2年産米価（R3年3月までの全銘柄平均価格、包装代、消費税含まず）を乗じて算出。

※3 R3当年産収入額は、R3年産水稻の10a当たり収量（10月25日現在）に、R3年産の仮定米価（包装代、消費税含まず）を乗じて算出。

※4 実際の補てん額は、地域ごとに定められた標準的収入額等に基づき、麦や大豆等の他のナラシ対象作物ごとの収入差額を合算相殺して算出。

ナラシ対策：令和2年産米の10a当たりの当年産収入額及び補てん額（試算）

| | R2年産 | | | | R3年産 |
|-----|---------|---------|--------|-----------|---------|
| | 標準的収入額 | 当年産収入額 | 補てん額※ | 補てん後の収入額※ | 標準的収入額 |
| 北海道 | 127,953 | 136,903 | 0 | - | 133,218 |
| 青森 | 131,256 | 128,876 | 2,142 | 131,018 | 133,455 |
| 岩手 | 121,096 | 124,904 | 0 | - | 124,960 |
| 宮城 | 125,330 | 124,476 | 768 | 125,244 | 127,359 |
| 秋田 | 133,362 | 134,828 | 0 | - | 136,065 |
| 山形 | 140,644 | 142,977 | 0 | - | 143,389 |
| 福島 | 125,495 | 120,409 | 4,577 | 124,986 | 126,142 |
| 茨城 | 117,055 | 110,519 | 5,882 | 116,401 | 117,376 |
| 栃木 | 119,820 | 115,132 | 4,219 | 119,351 | 119,586 |
| 群馬 | 111,280 | 94,215 | 15,358 | 109,573 | 111,112 |
| 埼玉 | 108,397 | 103,193 | 4,683 | 107,876 | 108,706 |
| 千葉 | 118,523 | 112,358 | 5,548 | 117,906 | 118,574 |
| 東京 | 95,031 | 90,807 | 3,801 | 94,608 | 95,033 |
| 神奈川 | 113,003 | 107,606 | 4,857 | 112,463 | 112,909 |
| 山梨 | 144,840 | 148,684 | 0 | - | 147,988 |
| 長野 | 145,499 | 141,350 | 3,734 | 145,084 | 146,760 |
| 静岡 | 119,762 | 111,820 | 7,147 | 118,967 | 119,762 |
| 新潟 | 139,272 | 142,904 | 0 | - | 141,583 |
| 富山 | 130,892 | 131,364 | 0 | - | 131,718 |
| 石川 | 120,394 | 122,863 | 0 | - | 122,322 |
| 福井 | 121,930 | 118,449 | 3,132 | 121,581 | 122,488 |
| 岐阜 | 110,591 | 107,787 | 2,523 | 110,310 | 111,260 |
| 愛知 | 112,380 | 105,824 | 5,900 | 111,724 | 112,405 |
| 三重 | 112,357 | 108,517 | 3,456 | 111,973 | 112,355 |

(単位:円/10a)

| | R2年産 | | | | R3年産 |
|-----|---------|---------|--------|-----------|---------|
| | 標準的収入額 | 当年産収入額 | 補てん額※ | 補てん後の収入額※ | 標準的収入額 |
| 滋賀 | 115,711 | 115,823 | 0 | - | 116,959 |
| 京都 | 118,662 | 121,008 | 0 | - | 120,035 |
| 大阪 | 116,352 | 107,152 | 8,280 | 115,432 | 116,352 |
| 兵庫 | 113,758 | 108,605 | 4,637 | 113,242 | 113,758 |
| 奈良 | 114,291 | 107,301 | 6,291 | 113,592 | 115,493 |
| 和歌山 | 115,800 | 104,882 | 9,826 | 114,708 | 115,701 |
| 鳥取 | 111,827 | 114,142 | 0 | - | 114,234 |
| 島根 | 116,677 | 115,963 | 642 | 116,605 | 117,346 |
| 岡山 | 116,537 | 106,976 | 8,604 | 115,580 | 116,313 |
| 広島 | 115,392 | 110,678 | 4,242 | 114,920 | 115,198 |
| 山口 | 110,330 | 86,908 | 8,635 | 107,987 | 110,333 |
| 徳島 | 107,495 | 104,482 | 2,711 | 107,193 | 107,892 |
| 香川 | 106,722 | 115,080 | 0 | - | 108,546 |
| 愛媛 | 106,139 | 110,505 | 0 | - | 109,568 |
| 高知 | 98,719 | 98,500 | 197 | 98,697 | 99,835 |
| 福岡 | 116,408 | 101,767 | 6,728 | 114,943 | 116,479 |
| 佐賀 | 109,207 | 98,027 | 4,110 | 108,089 | 107,384 |
| 長崎 | 111,605 | 97,461 | 10,305 | 110,190 | 111,524 |
| 熊本 | 116,832 | 111,053 | 5,201 | 116,254 | 117,052 |
| 大分 | 110,908 | 94,504 | 5,598 | 109,267 | 110,874 |
| 宮崎 | 113,693 | 112,868 | 742 | 113,610 | 114,350 |
| 鹿児島 | 114,997 | 117,508 | 0 | - | 116,555 |
| 沖縄 | 68,849 | 73,099 | 0 | - | 71,844 |
| 全国 | 124,174 | 120,546 | 3,265 | 123,811 | 124,680 |

※ 補てん額は、標準的収入額と当年産収入額の差額の9割から、共済金相当額を控除した金額。補てん後の収入額は、当年産収入額、補てん額及び共済金相当額の合計。
また、実際の補てん額は、地域ごとに定められた標準的収入額等に基づき、麦や大豆等のナラシ対象作物ごとの収入差額を合算相殺して算出。

ナラシ対策：各年産の加入状況等

○ 加入申請件数・面積・主食用米のカバー率

| | 加入申請件数 | うち、米の 加入申請件数 | 加入申請面積 (米) | 主食用米の カバー率(試算) |
|-------|--------|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | (万件) | (万件) | (万ha) | (%) |
| H24年産 | 7.1 | 6.0 | 43.1 | 43.5 |
| H25年産 | 6.8 | 5.7 | 42.8 | 42.2 |
| H26年産 | 7.1 | 6.0 | 45.0 | 43.4 |
| H27年産 | 11.2 | 10.1 | 55.0 | 56.2 |
| H28年産 | 11.0 | 9.8 | 55.3 | 56.9 |
| H29年産 | 10.6 | 9.5 | 55.7 | 58.5 |
| H30年産 | 10.1 | 9.1 | 57.1 | 61.2 |
| R元年産 | 8.8 | 7.8 (+収入保険(1.5): 9.3) | 49.9 (+収入保険(10.7): 60.6) | 51.4 (+収入保険(10.2): 61.6) |
| R2年産 | 7.8 | 6.8 (+収入保険(2.3): 9.1) | 46.4 (+収入保険(17.9): 64.3) | — |
| R3年産 | 6.8 | 5.9 (+収入保険(3.7): 9.6) | 37.9 (+収入保険: —) | — |

※ 加入申請件数・面積は、積立申し出た者の数値。

※ R元年産以降の下段カッコ内は、ナラシと収入保険の合計値(R3年産の米の収入保険加入者件数は9月末時点の数値)。

※ ナラシのカバー率は、ナラシ加入数量(ナラシの米の加入申請面積に単収を乗じて算出)を米の農産物検査数量(水陸稲)で除して試算。
収入保険のカバー率は、収入保険加入数量(加入面積に単収を乗じて算出)を米の農産物検査数量(水陸稲及び飼料用米)で除して試算。
(R2年産以降のカバー率は、農産物検査数量等が未確定のため現時点では試算していない。)

政府備蓄米に関する食糧法の規定

【主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）（抜粋）】

（主要食糧の需給及び価格の安定を図るための基本方針）

第二条 政府は、米穀の需給及び価格の安定を図るため、米穀の需給の適確な見通しを策定し、これに基づき、整合性をもって、米穀の需給の均衡を図るための生産調整の円滑な推進、米穀の供給が不足する事態に備えた備蓄の機動的な運営及び消費者が必要とする米穀の適正かつ円滑な流通の確保を図るとともに、米穀の適切な買入れ、輸入及び売渡しを行うものとする。

2・3 （略）

（定義）

第三条 （略）

2 この法律において「米穀の備蓄」とは、米穀の生産量の減少によりその供給が不足する事態に備え、必要な数量の米穀を在庫として保有することをいう。

3 （略）

（主要食糧の交付等）

第四十九条 政府は、政令で定めるところにより、主要食糧の交付又は貸付けを行うことができる。

2 （略）

【主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律施行令（平成7年政令第98号）（抜粋）】

（主要食糧の交付）

第十五条 法第四十九条第一項の主要食糧の交付は、地方公共団体その他農林水産大臣が適当と認める者が主要食糧を試験研究又は教育の用に供しようとする場合に行うことができる。

2 （略）

水田活用の直接支払交付金

【令和4年度予算概算要求額 332,000 (305,000) 百万円】

<対策のポイント>

米政策改革の定着と水田フル活用の推進に向け、食料自給率・自給力の向上に資する**麦、大豆、飼料用米等の戦略作物の本作化**とともに、地域の特色をいかした**魅力的な産地づくり、高収益作物の導入・定着等**を支援します。また、新たな需要拡大が期待される新市場開拓用米等について、**産地と実需者との連携に基づいた低コスト生産の取組**を支援します。

<政策目標>

- 麦・大豆等の作付面積を拡大（麦30.7万ha、大豆17万ha [令和12年度まで]）
- 実需者との結びつきのもとで、需要に応じた生産を行う産地の育成・強化
- 飼料用米、米粉用米の生産を拡大（飼料用米：70万トン、米粉用米：13万トン [令和12年度まで]）
- 飼料自給率の向上（34% [令和12年度まで]）

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 戦略作物助成

水田を活用して、**麦、大豆、飼料作物、WCS用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米**を生産する農業者を支援します。

戦略作物助成 ※1

| 対象作物 | 交付単価 |
|-------------|--------------------------|
| 麦、大豆、飼料作物※2 | 3.5万円/10a |
| WCS用稲 | 8.0万円/10a |
| 加工用米 | 2.0万円/10a |
| 飼料用米、米粉用米 | 収量に応じ、5.5万円～10.5万円/10a※3 |

【下線部分は拡充・変更点】
※1：長期間水田（水稲作付）として活用されていない農地の扱いについて、予算編成過程で検討

※2：飼料用とうもろこしを含む
※3：標準単収以上の収量が確実だった者には、自然災害等の場合でも、特例措置として、標準単価（8万円/10a）で支援

2. 産地交付金

地域の作物振興の設計図となる「水田収益力強化ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、二毛作や耕畜連携を含め、**地域の裁量で産地づくりに向けた取組**を支援します。

産地交付金 ※1

- 国から配分する資金枠の範囲内で、都道府県や地域農業再生協議会毎に「水田収益力強化ビジョン」において支援内容（対象作物や単価等）を設定（一定割合以上は都道府県段階で支援内容を決定）。
- また、当年産のそば・なたね、新市場開拓用米、地力増進作物※4の作付（基幹作のみ）に応じて資金枠を追加配分（配分単価：2.0万円/10a）

※4：有機栽培や高収益作物等への転換に向けた土づくりの取組

3. 水田リノベーション助成

産地と実需者との連携の下、新市場開拓用米等の低コスト生産の取組を行う農業者を支援します。

水田リノベーション助成 ※5～※7

- 産地単位でまとまって、実需者との連携の下、対象作物（新市場開拓用米等）の低コスト生産に取り組もうとする地域農業再生協議会が「**産地・実需協働プラン**」を策定。
- **プランの内容**（低コスト生産の取組や対象作物の拡大割合等）に応じてポイント付けを行い、予算枠の範囲内で助成対象となる協議会を決定。当該協議会のプランに位置づけられた農業者の取組面積に応じて支援。

※5：農業者等が実需者と販売契約を締結することが必要

※6：対象作物、交付単価は予算編成過程で検討

※7：本助成の対象となった面積は、戦略作物助成・産地交付金追加配分の対象から除外

4. 水田農業高収益化推進助成

都道府県が策定した「水田農業高収益化推進計画」に基づき、**高収益作物の導入・定着等**を図る取組を支援します。

水田農業高収益化推進助成

- 「推進計画」に位置づけられた産地における以下の取組を支援。
 - ① **高収益作物定着促進支援**（2.0（3.0※8）万円/10a×5年間）高収益作物の新たな導入面積に応じて支援。（②とセット）
 - ② **高収益作物畑地化支援**（17.5万円/10a）高収益作物による畑地化の取組を支援※9。
 - ③ **子実用とうもろこし支援**（1.0万円/10a）子実用とうもろこしの作付面積に応じて支援。

※8：加工・業務用野菜等の場合

※9：R5年度までの時限措置とし、その他の転換作物に係る畑地化も同様の単価で支援

5. 都道府県連携型助成

都道府県が転換拡大に取り組む生産者を独自に支援する場合、国が追加的に支援します。

都道府県連携型助成

- 都道府県が転換作物を生産する農業者を独自に支援する場合に、当該支援の対象農業者に対して、前年度からの拡大面積に応じて、都道府県の支援単価と同額（上限：5千円/10a）で国が追加的に支援。

<事業の流れ>

営農計画書・交付申請書等の取りまとめ



【お問い合わせ先】 農産局企画課（03-3597-0191）

令和4年度概算要求②

水田農業の高収益化の推進〈一部公共〉

〈対策のポイント〉

高収益作物の導入・定着を図るため、「水田農業高収益化推進計画」に基づき、国のみならず地方公共団体等の関係部局が連携し、**水田における高収益作物への転換、水田の畑地化・汎用化のための基盤整備、栽培技術や機械・施設の導入、販路確保等の取組を計画的かつ一体的に推進**します。

〈政策目標〉

水田における高収益作物の産地の創設（500産地〔令和7年度まで〕）

〈事業の内容〉

〈事業イメージ〉

1. 計画策定の支援

産地の合意形成、品目の選定や販路の確保等の「**推進計画**」の**策定・改定に資する取組を支援**します。

2. 技術・機械等の導入支援

「**推進計画**」に位置付けられた産地における**以下の取組を優先採択で支援**します。

- ① 栽培技術の実証、作柄安定技術の導入、機械等のリース導入等
- ② 産地の収益力強化等のための農業用機械・施設の導入
- ③ 水田への果樹の新植や、省力樹形・作業機械等を面的に導入し、労働生産性を抜本的に高めたモデル産地の形成等

3. 高収益作物の導入・定着支援

「**推進計画**」に位置付けられた産地における**以下の取組を支援**します。

- ① **高収益作物の新たな導入**（2.0（3.0※¹）万円/10a×5年間）
 - ② **高収益作物による畑地化**（17.5万円※²/10a）
 - ③ **子実用とうもろこしの作付け**（1.0万円/10a）
- ※¹ 加工・業務野菜等の場合
※² R5年度までの時限措置

4. 生産基盤の整備

基盤整備事業において、「**推進計画**」に位置付けられた地区における高収益作物の導入・定着に向けた**畑地化・汎用化等を支援**します。

- ① 「**推進計画**」に位置付けられた地区を優先採択・優先配分
- ② 一定割合以上の高収益作物の導入を行う場合、農業者の費用負担を軽減

【お問い合わせ先】

- | | | |
|-------------|-------------|----------------|
| (1, 2①②の事業) | 農産局園芸作物課 | (03-6744-2113) |
| (2③の事業) | 農産局果樹・茶グループ | (03-3502-5957) |
| (1, 2①の事業) | 畜産局飼料課 | (03-3502-5993) |
| (2②の事業) | 経営局経営政策課 | (03-6744-2148) |
| (3の事業) | 農産局企画課※ | (03-3597-0191) |
| (4の事業) | 農村振興局設計課 | (03-3502-8695) |
- ※プロジェクトの窓口を担当

1. 計画策定の支援

- ・時代を拓く園芸産地づくり支援事業のうち水田農業高収益作物導入推進事業（12億円の内数）
- ・畜産生産力・生産体制強化対策事業のうち国産濃厚飼料生産・利用拡大対策（17億円の内数）

支援

水田農業高収益化推進計画（都道府県）

- 都道府県・産地段階の推進体制・役割（国と同様のプロジェクトチームを構築）
 - 都道府県・産地ごとの推進品目の導入目標や目標達成に向けた取組
- 〔栽培技術の習得や農地の条件整備に向けた取組
活用予定の国の支援策や実施地区
・基盤整備事業等を活用している場合は、当該事業の「事業計画」とのリンク 等

支援後も計画の
実現をフォローアップ

承認・
支援

策定・
提出

水田農業高収益化推進プロジェクト（国）

2. 技術・機械等の導入支援

- ①：時代を拓く園芸産地づくり支援事業（12億円の内数）
畜産生産力・生産体制強化対策事業のうち国産濃厚飼料生産・利用拡大対策（17億円の内数）
 - ②：強い農業づくり総合支援交付金のうち産地基幹施設等支援タイプ（193億円の内数）、
持続的経営体支援交付金（120億円の内数）
 - ③：果樹農業生産力増強総合対策（59億円の内数）等※
- ※ このほか、農地耕作条件改善事業のうち未来型産地形成推進条件整備型でも実施

3. 高収益作物の導入・定着支援

- 〔水田活用の直接支払交付金のうち水田農業高収益化推進助成（3,320億円の内数）〕

4. 生産基盤の整備

- ①：農業競争力強化基盤整備事業（3,946億円の内数）、農地耕作条件改善事業（294億円）等
- ②：農業競争力強化基盤整備事業（3,946億円の内数）

<対策のポイント>

生産者、集荷業者・団体の自主的な取組により需要に応じた生産・販売が行われる環境を整備し、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を実施する体制を構築するため、**民間主導のコメの周年供給・需要拡大等に対する取組を支援**します。

<事業目標>

生産者、集荷業者・団体による自主的な経営判断や販売戦略に基づく、需要に応じた米の生産・販売の実現

<事業の内容>

全国事業

1. 業務用米、輸出用米等の安定取引拡大支援

産地と中食・外食事業者、輸出事業者等との安定取引を拡大するため、**民間団体等が行う業務用米や輸出用米の生産・流通の拡大に向けた展示商談会、新たな需要開拓に向けた販売促進、海外業務用需要などの新たな市場開拓に必要な取組等**を支援します。

産地

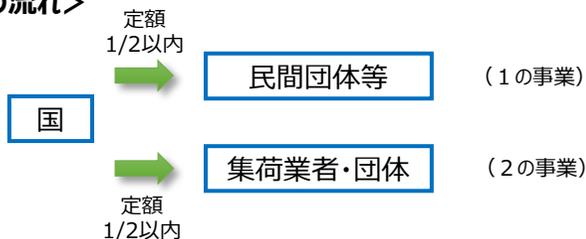
2. 周年供給・需要拡大支援

産地において、あらかじめ生産者等が積立てを行い、以下の取組を実施する場合に支援します。

- ① 主食用米を翌年から翌々年以降に長期計画的に販売する取組（収穫前契約、複数年契約の場合は追加的に支援。保管経費の支援対象期間を拡大。）
- ② 主食用米を輸出向けに販売する際の商品開発、販売促進等の取組
- ③ 主食用米を業務用向け等に販売する際の商品開発、販売促進等の取組
- ④ 主食用米を非主食用へ販売する取組

また、米の流通合理化を進めるため、玄米の推奨規格フレコンを活用した**輸送モデル実証**を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

1. 業務用米、輸出用米等の安定取引拡大支援

〔セミナー〕



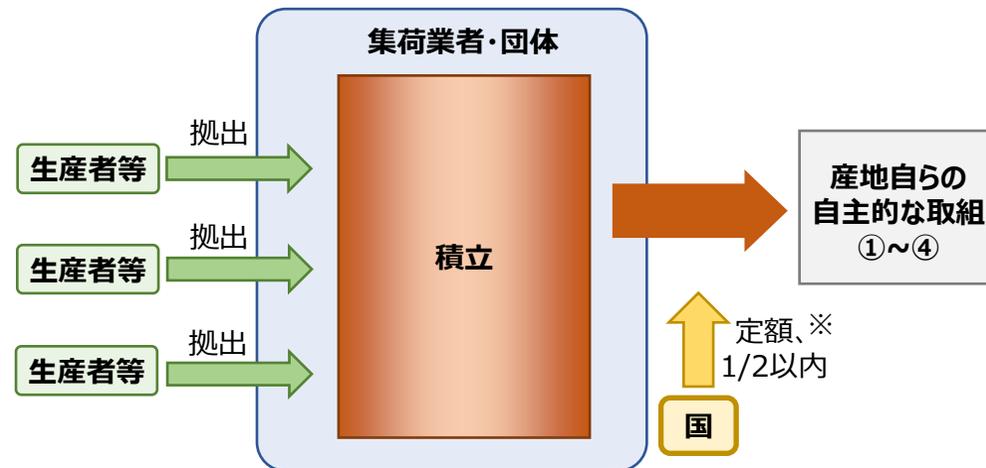
〔展示商談会〕



〔個別商談会〕



2. 周年供給・需要拡大支援



※ 値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

令和4年度概算要求④

経営所得安定対策

【令和4年度予算概算要求額 265,499 (272,473) 百万円】

<対策のポイント>

米穀、麦その他の重要な農産物について、諸外国との生産条件の格差や農業収入の減少が農業経営に及ぼす影響を緩和するため、**畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）**及び**米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）**を、担い手（認定農業者、集落営農、認定新規就農者）に対して直接交付します。（いずれも規模要件はありません。）

<政策目標>

米・麦・大豆等の土地利用型農業の経営体の経営の安定

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

（所要額）193,818 (198,593) 百万円

諸外国との生産条件の格差による不利がある畑作物を生産する農業者に対して、経営安定のための交付金を直接交付します。

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【交付単価（令和2年産～4年産まで適用）】

【数量払】 交付単価は品質区分に応じて設定

| 対象作物 | 平均交付単価 | 対象作物 | 平均交付単価 | 対象作物 | 平均交付単価 |
|------|-------------|------|-------------|-------------|--------------|
| 小麦 | 6,710円/60kg | はだか麦 | 9,560円/60kg | でん粉原料用ばれいしょ | 13,560円/t |
| 二条大麦 | 6,780円/50kg | 大豆 | 9,930円/60kg | そば | 13,170円/45kg |
| 六条大麦 | 5,660円/50kg | てん菜 | 6,840円/t | なたね | 8,000円/60kg |

2. 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）

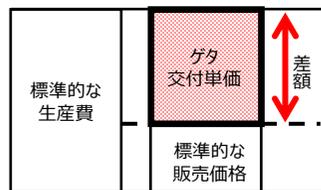
（所要額）61,797 (65,489) 百万円

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょの令和3年産収入額の合計が、過去の平均収入である標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を、対策加入者と国が1対3の割合で拠出した積立金から補填します。

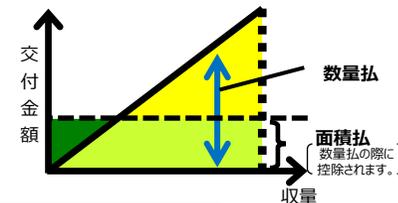
【面積払】 当年産の作付面積に基づき数量払の先払いとして交付

2万円/10a（そばについては、1.3万円/10a）

<交付単価のイメージ>



<数量払と面積払との関係>



3. 経営所得安定対策等推進事業等

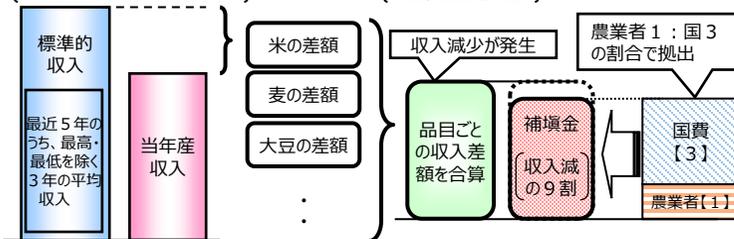
9,884 (8,390) 百万円

農業再生協議会が行う水田収益力強化ビジョン等の作成・周知や経営所得安定対策等の運営に必要な経費を助成します。また、申請手続の電子化を支援します。

米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）

〔都道府県等地域単位で算定〕

〔農業者ごとに算定〕



<事業の流れ>

営農計画書・交付申請書等の取りまとめ

農業再生協議会等



【お問い合わせ先】 農産局穀物課経営安定対策室（03-3502-5601）

政府備蓄米の無償交付(子ども食堂等、子ども宅食への支援)【令和3年度】

背景・目的

- 新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、**学校給食の補完機能を果たす「子ども食堂等」**に加え、子ども食堂に集まりにくい中で、**子育て家庭に食材を届ける「子ども宅食」**の取組が拡大しています。
- 従前より**政府備蓄米を活用**して、学校給食における**ごはん食の拡大を支援**してきた**無償交付制度**の枠組みの下、**子ども食堂等や子ども宅食においても食育の一環としてごはん食の推進を支援**します。

事業内容

【子ども食堂等】

- **ごはん食を提供する子ども食堂等(食事提供団体)の取組**に交付。
- **食事提供を行う場所で、子どもにごはん食の魅力などを伝える食育の取組を行うことが条件**。(食事提供団体ごとに、一申請当たり**120Kg**を上限に交付)

【子ども宅食】

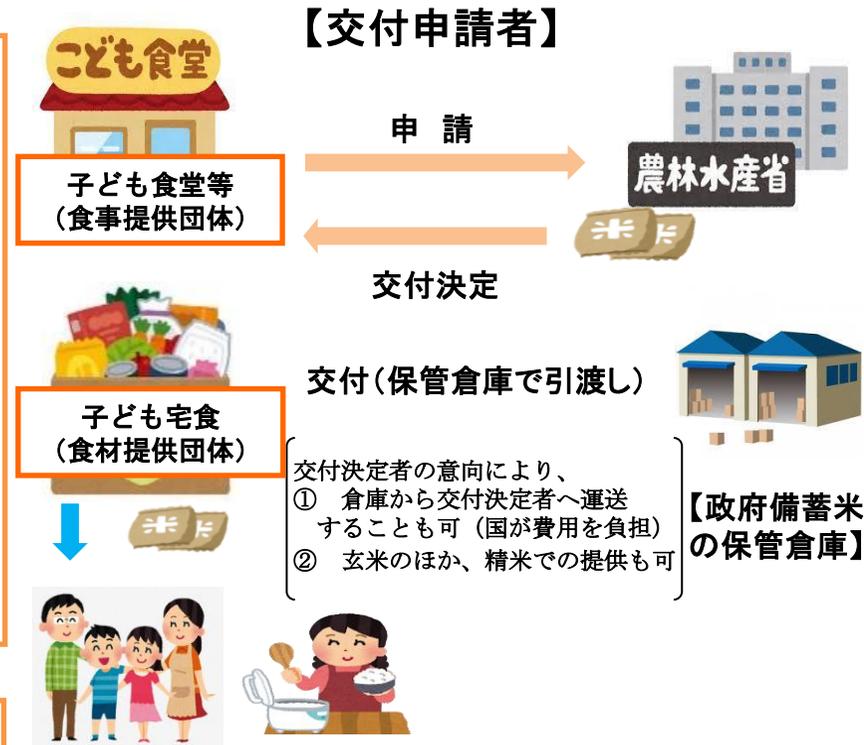
- **食材提供を希望する子育て家庭に、政府備蓄米と他の食材を併せて、直接配付を行う団体(食材提供団体)に交付**。
- **ごはん食の魅力が伝わるチラシやレシピなど活用し、子育て家庭に対して、ごはん食の魅力を伝えるなどの食育の取組を行うことが条件**。(食材提供団体ごとに、一申請当たり**300Kg**を上限に交付)
- **交付対象者 ※以下の要件を満たした団体**

- ・「都道府県や市区町村等と連携し、子育て家庭の情報を基に活動をしている団体」又は「公的支援を受けている団体」
- ・「子育て家庭に直接、食事又は食材の提供を行っている団体」

申請方法

- 農林水産省に**直接申請**。

- ※ 依頼を受けた団体が交付申請書を取りまとめて提出することも可能。(交付申請者は、食事提供団体、食材提供団体です。)
- ※ 交付された政府備蓄米について、交付した数量を適切に使用した場合、必要に応じて年度内の追加申請が可能。
- ※ 同じ提供団体であっても活動実態が異なる場合、それぞれの支部単位での申請が可能。



本事業の内容については、以下の担当まで直接お問い合わせください。

【お問い合わせ先】 農産局穀物課消費流通第1班
(ダイヤルイン：03-3502-7950)

米の需要拡大・販売促進対策について

- 新型コロナウイルス感染症の影響等により、特に中食・外食向けの需要が大きく減少。
- Go To Eatキャンペーンによる外食需要の喚起とあわせて、国産農林水産物等販売促進緊急対策（2年度1次補正）の対象品目として、中食・外食向けの米を新たに追加し、販売促進の取組を支援。
- 加えて、国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業（2年度3次補正）により、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う需要の減少の影響を受けている農林水産物を活用した販売促進、販路の多様化等の取組を支援。

国産農林水産物等販売促進緊急対策（1次補正）

- ◆支援対象 → 中食・外食向けの米
- ◆支援対象の取組
中食・外食事業者等の販促キャンペーンで使用する米の費用（5,300円/60kg）等を支援 [期間：3/12までにキャンペーン完了]

国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業（3次補正）

- ◆支援対象 → 品目の特定なし
需要の減少の影響を受けている農林水産物等
- ◆支援対象の取組
 - ①消費者向けの新たな販路確立（インターネット販売）
 - ②テイクアウト・デリバリーを活用した多様な販路確立
 - ③創意工夫による多様な販路確立
 - ④学校給食・子ども食堂等への食材提供

※ 助成単価・補助率： ①の取組〔送料〕定額、〔広告宣伝費〕1/2以内、②及び③の取組〔食材費〕1/2以内、④の取組〔食材費〕定額

| | |
|-----------|------------------|
| ○期間（1次募集） | ：3/26までにキャンペーン完了 |
| ○期間（2次募集） | ：7/31までにキャンペーン完了 |
| ○期間（3次募集） | ：9/30までにキャンペーン完了 |

～外食チェーンでの販売促進の取組事例～

【くら寿司】 **産地応援キャンペーン!**



※くら寿司店舗内PR



※注文タッチパネルに掲載

■キャンペーン概要

- 名称：産地応援キャンペーン!
- 対象店舗：くら寿司 全店
- 期間：2021年4月23日～5月6日（山形県産米）、5月12日～5月25日（宮城県産米）、6月4日～7月1日（岩手県産米）、7月2日～7月29日（北海道産米）
- 内容：「特大切り・特盛りフェア」等を開催し、お客様の集客を図ることにより道県産米の消費拡大に繋げる。

国産農林水産物等販路多様化緊急対策（令和2年度3次補正）の取組の具体例

【坂本食糧 -量販店向け販売-】

朝刊 2021/06/12(土)



坂本食糧が6月末から販売する栃木県産米の
お得な家庭向け商品

需要減対策

外食用コメ お得に
八代市の米穀卸店 販売

米穀卸の坂本食糧（八代市）は、新型コロナウィルス感染拡大の影響で需要が落ち込んだ外食用のコメを家庭向けにアレンジした商品として、6月末から期間限定で販売する。価格も安くして販路を多様化し、コメの消費拡大を促す。

主に飲食店が使う栃木県産の「とちぎの星」（1袋7kg入り）に、持ち運びしやすいようにエコバッグを付け、5kg入り相当の価格で販売する。県内のスーパーや量販店で7月末ま

で取り扱う。坂本食糧は、コロナの影響で需要が減少した国産農林水産物の販路多様化を支援する、農林水産省の緊急対策事業の実施者に選ばれた。コメの調達や輸送にかかる費用に対する助成金を活用する。

同社によると、昨年産が不作だった九州産に対し、関東産は余剰感が強まっているという。坂本盛幸社長は「生産者を少しでも応援したい」と話している。（田上二平）

（熊本日日新聞に掲載）

【木徳神糧(株) -インターネット販売-】

木徳神糧公式オンラインショップ「KOMETS」



■キャンペーン概要

- 名称：食べて産地応援
- 対象：宮城県産ひとめぼれ
- 期間：2021年7月29日（木）正午まで
- 内容：研がずに炊ける便利な無洗米をなんと普通精米と同じ価格でご提供（送料無料）
※宮城ひとめぼれと国産米食べ比べセットや国産もち麦等とのセット販売を実施。

産地応援！

「送料無料キャンペーン 第2弾」



（木徳神糧のHPに掲載）

【和風レストラン天狗 -外食での販促-】



News Release

2021年3月15日
テンアライド株式会社

産地応援企画「和食れすとらん天狗」にて
“国産米を食べよう”キャンペーンを3月13日より実施
～食べて応援！お客様の「美味しい」を生産者の「嬉しい」へ～



テンアライド株式会社（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：飯田永太）が展開する「和食れすとらん天狗」にて3月13日（土）より、産地応援を目的とした店舗使用精米の特別販売を期間限定で行います。



■キャンペーン概要

- 名称：産地応援！国産米を食べよう！！
- 対象店舗：和食れすとらん天狗 全店
- 期間：2021年3月13日～26日
- 内容：北海道産きさら397（5kg）1,782円（税込）
※ご飯の大盛り・お替り無料サービスに申しましては、和食れすとらん天狗の他、旬鮮酒場天狗、テング酒場、あげてけやでも実施しています。

（テンアライドのHPに掲載）

【ホクレン -コンビニ（株）セコマ）での販促-】



■キャンペーン概要

- 名称：「北海道米食べて応援」
- 対象店舗：コンビニエンスストア「セコマ」全店
- 期間：2021年3月15日～26日
- 内容：キャンペーンタイトルを「ごはんを食べよう」と設定し、店頭ツール・チラシ等で広範囲にPRすることにより、北海道産米の需要喚起を図る。
※大盛（無料）商品やおむすび7個購入で1個プレゼントを実施。

（店頭ツール・チラシに掲載）

コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況

| 品 目 名 | | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | | (参考) 主な輸出先国 |
|--------------------|---------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------|---------------------------------------|
| | | | | | | 1～9月 | 対前年比 | |
| コメ・コメ加工品 | 数量 (原料米換算) | 28,668トン | 32,202トン | 35,505トン | 36,442トン | 31,603トン | +32% | アメリカ 香港 中国 台湾 シンガポール |
| | 金額 | 264億円 | 309億円 | 329億円 | 347億円 | 357億円 | +66% | |
| コメ (援助米を除く) | 数量 | 11,841トン | 13,794トン | 17,381トン | 19,687トン | 15,673トン | +16% | 香港 シンガポール アメリカ 台湾 オーストラリア |
| | 金額 | 32億円 | 38億円 | 46億円 | 53億円 | 41億円 | +12% | |
| 米菓 (あられ・せんべい) | 数量 | 3,849トン | 4,053トン | 4,033トン | 4,222トン | 3,786トン | +29% | アメリカ 台湾 香港 中国 シンガポール |
| | 原料米換算 | 3,272トン | 3,445トン | 3,428トン | 3,589トン | 3,218トン | +29% | |
| | 金額 | 42億円 | 44億円 | 43億円 | 45億円 | 41億円 | +31% | |
| 日本酒 (清酒) | 数量 | 23,482 キロリットル | 25,747 キロリットル | 24,928 キロリットル | 21,761 キロリットル | 22,568 キロリットル | +62% | 中国 香港 アメリカ シンガポール 台湾 |
| | 原料米換算 | 13,227トン | 14,502トン | 14,041トン | 12,257トン | 12,712トン | +62% | |
| | 金額 | 187億円 | 222億円 | 234億円 | 241億円 | 275億円 | +88% | |
| パックご飯等 | 数量 | 658トン | 923トン | 1,018トン | 1,203トン | 839トン | -2% | アメリカ 香港 台湾 ベトナム タイ |
| | 原料米換算 | 346トン | 485トン | 535トン | 632トン | 441トン | -2% | |
| | 金額 | 3億円 | 5億円 | 5億円 | 7億円 | 4億円 | -7% | |
| 米粉及び米粉製品 (米粉麺等) | 数量 | | | 118トン | 249トン | 67トン | -57% | タイ オランダ アメリカ 台湾 香港 |
| | 原料米換算 | | | 146トン | 308トン | 83トン | -57% | |
| | 金額 | | | 0.3億円 | 0.7億円 | 0.4億円 | -18% | |
| コメ・パックご飯・米粉及び米粉製品 | 数量 (原料米換算) | 12,187トン | 14,279トン | 18,062トン | 20,627トン | 16,197トン | +14% | アメリカ 香港 中国 台湾 シンガポール |
| | 金額 | 35億円 | 42億円 | 52億円 | 60億円 | 46億円 | +9% | |

資料：財務省「貿易統計」（政府による食糧援助を除く。）

注1：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。パックご飯等は2017年より、米粉は2019年より、米粉麺等は2020年より貿易統計にて輸出実績を集計・公表。

注2：米粉及び米粉製品のうち米粉製品の原料米換算は米粉100%として推計。

注3：2021年のパックご飯等の実績は財務省貿易統計HPに掲載されている「確報値公表後における修正情報の掲載について」（<https://www.customs.go.jp/toukei/sankou/teisei/>）におけるフィリピン向けの数量及び金額の修正を農林水産省にて反映させたもの。